

舟形土器再考

— 東日本の資料集成をとおして —

田中 英世

1. はじめに

野呂山田貝塚の舟形土器については、発見の経緯を含めて当紀要第 12 号の「千葉市野呂山田貝塚出土の舟形土器」に述べてある。当時は類例も少なく、楕円形土器を含めて集成を行った（注 1）。その後、内野第一遺跡からも舟形土器が出土し（注 2）、類例を探索している間に、幾つかの資料紹介・集成が行われ、全国的規模で捉え直す時期にきていることを感じる。また、内野第 1 遺跡についても、掘立柱建物跡の存在を含めて、改めて再検討する時期にきており、ここでは、遺構の捉え直しの前段階として（注 3）、注目される遺物の紹介として舟形土器を取り上げ、記憶を呼び戻す一助としたい。

2. 舟形土器についての近年の研究動向

舟形土器には、楕円形土器・葬送儀礼用の土器・純粋に舟を模した土製品等があり、北海道にも別系統の舟形土器が存在する。近年は低地遺跡の調査により、木製品の出土も多く「舟形」と呼称される例も多い。八木奨三郎の椎塚貝塚の報告中に「船舶ニ似テ」と表現されたのが初出と言われている（注 4）。その後、西村眞次は小谷沼および鉾切洞窟の刳舟について論じ、大野雲外は寶ヶ峰遺跡出土の「土製舟形」を紹介、八幡一郎は寺山配石遺跡出土の楕円形土器について述べている（注 5）。近年は、中村耕作氏による関東・中部地方を中心とした葬送儀礼用の舟形土器の集成・検討や深澤芳樹氏による出土資料の集成が行われる一方で、茨城県部室貝塚・秋田県大芦 I 遺跡出土例の報告や宮城県南境貝塚出土の刻線資料による当時の漁法に至るまでの検討等が行われてきた（注 6）。また丸木舟を中心としたシンポジウム等も各地で行なわれ（注 7）、埼玉県を中心とした埋没台地の調査により、丸木舟の出土例も増し、それに伴い舟形土製品に加え木製品の存在もクローズ・アップされてきている（注 8）。

ここでは、新たに舟形製品を類型化し検討を行うが、分類の基本は中村氏によるものを踏襲する。しかし、中村氏の分類は土器・土製品を対象にしたものであり、木製品、あるいは縄文時代でも稀にみられる線刻文については言及していない。ここではこれらを含めて、P：土器・土製品、T：木器・木製品、S：石製品とし、第 1 類—舟を模したと思われるもので、a 種—長楕円形を呈し舟底が半円形を呈する。b 種—舟底が平らで構造舟的外観を呈する。千葉市野呂山田・内野第 1 遺跡例等。第 2 類—中村耕作氏の一連の集成による関東・中部地方に分布の中心が認められる葬送儀礼用のもの。東北地方では類例は少ない。第 3 類—茨城県部室貝塚例のように楕円形を呈するもの。第 4 類—ミニチュア土製品。第 5 類—線刻例。a 種—土器に行う例。b 種—石に行う例がある。線刻例には春成秀爾氏の指摘のように真贋問題があり（注 9）、今回は問題例を除外してある。資料の真贋問題は考古学の根本問題であり、資料集成でも実見して集成を行うべきであり、ここに現在考古学の大きな問題点がある。

3. 個別遺跡例

関東・甲信越地方

一時の大規模開発は減少傾向にあるが、その時の報告書が随時刊行されてきており、資料の増加が急激に増している。前期では埼玉県さいたま市深作東部遺跡群の関山式土器と千葉県佐倉市向原遺跡の諸磯b式の2例が該当する。深作東部遺跡群は紡錘形をなすが、向原遺跡例は破片の接合により楕円形をなすと思われるが明確な形は不明である。中期では阿玉台式の千葉県八千代市ヲサル山遺跡例と千葉県根崎遺跡の2例がある。ヲサル山遺跡は注口土器で、根崎遺跡は大形の容器と捉えられる。加曽利E式前半では、現在整理中の茨城県銚田市吉十北遺跡の双口土器の平面形が楕円形を呈する。長軸方向に孔が設けられており、胴部以下は通常の深鉢形土器と同様円筒形を呈する。

加曽利E式後半～堀ノ内式の間には全く認められなくなるが、加曽利B式になると西関東地方には太岳院遺跡のような舟形土器が墓墳の副葬品として、東関東地方には部室貝塚例のような舟形土器が分布する。西関東地方の例は横浜市三の丸・町田市野津田上の原遺跡のように明確に墓域内から出土する例や、町田市田端遺跡・神奈川県石神台遺跡のように配石遺跡に伴う例もある。これらの中には鉢形土器や舟形土器どうしが入れ子の状態で出土する例もある。また分布の境界でも、長野県小諸市石神遺跡・東京都三鷹市丸山遺跡A地点のように明確な墓域内から出土する例や、群馬県藤岡市谷地遺跡や安中市天神原遺跡のように配石遺跡に伴う例もあるが、大宮市南遺跡のように単独出土の例もある。東関東地方の部室貝塚例は幾つかに分類可能のようであるが（注10）、茨城県片岡遺跡SB5では異形台付土器・室ヶ峰式の注口土器と共に出土している。また千葉県内では、佐倉市井戸作・吉見台・井野長割遺跡や銚子市余山貝塚等からの出土が多いが、栃木・群馬県までは分布は認められない。晩期では、群馬県千網谷戸・長野市宮崎遺跡から浮線網状文の楕円文の土器が出土している他、内野第1・石ノ塔遺跡・御社宮司遺跡からは舟を模したと思われる紡錘形の船形土器が出土している。千葉市六通貝塚から出土している晩期前半の片口楕円形土器は、神戸市五番町遺跡出土例に類似し、群馬県下田・新潟県分谷地A遺跡のような低湿地遺跡から出土する藍胎漆器の水差しに形態が酷似し、埼玉県後谷遺跡の把手を有する土器も木製品との類似が指摘されている（注11）。関東地方の後期では、近年埼玉県白岡市清左衛門遺跡から舟を模した木製品が完形で出土し、南鴻沼・大木戸遺跡等からは丸木舟が検出されている。千葉県借当川流域は日本国内でも有数の丸木舟の出土地帯である（注12）。

東北地方

東北地方は青森県是川・亀ヶ岡遺跡等の低湿地を含む大遺跡が多く、古くから調査が行なわれているが、その調査内容が公表されている例は少なく、資料が大学の研究室や地元の収集家の蔵に眠っている例が多い。杉山寿栄男は関東地方では、楕円形を呈する土器は少ないが、東北地方には多いと述べている。おそらく、岩手県青森県亀ヶ岡・是川・石郷遺跡にみられるような土器を指していると思われるが、東北大学や弘前大学による図譜や集成図をみても決して多くはない（注13）。種々の研究会等で集成化が行われているようであるが、埋もれている資料の再発掘が急務であろう。是川遺跡では明治大学の調査により、岩手県大芦I遺跡からも丸木舟を模した流線形の舟形土製品が出土している。また、南境貝塚からは舟の線刻を施した礫が出土しており、その真贋や外洋航海の可能性まで検討が行われている。福島県では魚や蟹を線刻した礫が発見されており、秋田県には鮭石と呼称される魚形文刻石が分布する。東北新幹線や高速道路の工事による低湿地の調査で舟形木製品の出土も認められるが、現在はこれらを

総合的に結びつける必要がある(注14)。近年はそれらの資料の公表をはじめとして、資料の集成化や、山形県小松崎・青森県岩渡小谷遺跡等の水場遺跡が相次いで調査が行われ、資料の増加が計られつつある(注15)。岩渡小谷遺跡は舟形木製品8点が検出されている。完形2・器形復元可能1・船首先端欠損1・破片4である。材質はキリ2・コシアブラ1・ウルシ2・ハシギリ1・クリ2である。第10図42は鯉節形に近い形状で喫水線が高く、外洋にも適した構造になっている。帆走用の装置が発見されておらず、櫂が多く検出されていない点からペーロン漕法(漕手が進行方向に向かって櫂で漕ぐ漕法)であったと考えられる。また、ケヤキ製の鳥形木製品1点も出土しているが、容器未成品の可能性もある。伴出土器は円筒下層式が主体であり、台地上の集落と軌を一にしている。

北海道地方

南境貝塚の報告によれば、1943年に八幡一朗氏により北海道の線刻の集成が行われている(注16)。近年、鷹野光行氏により2度に亘る集成が行なわれ、舟形土器の多くが墓塚から出土していることが確認されており(注17)、猪狩忠雄氏により福島県の竜門寺式土器との関係が論じられている(注18)。また戸井貝塚出土の舟形土製品が準構造船または樹皮舟をモデルとした可能性が指摘され、本土との交流を行っていた舟を模倣としたのではないかと指摘もなされている(注19)。また、石狩川紅葉山49遺跡では、遊水池造成により1995(平成7)年から調査が行われており、縄文時代前期末～中期末・続縄文時代の旧河川が検出され、約3000点の木製品が出土している。中心となるのは縄文時代中期末の旧河川の調査で、丸木舟の先端部の他に、舟形木製容器3点が出土している。舟形木製容器は長さ1m近くあり、捕えたサケ・マスを載せて祝宴用に用いたのではないかと考えられている(注20)。

北陸地方

北陸地方は石川県埋蔵文化財センターが中心となり、「環日本海交流史調査研究記録集会」が行われ、種々の問題が検討されている。平成25年度に舟関係の討論が行われているが、縄文時代については記録に残されていない。福井県が丸木舟について鳥浜貝塚及びユリ遺跡の出土例から、①つくりが浅い。②材質がスギ。③当時の湖岸(古三方湖岸)付近で出土している点をあげ、内水面との交通に利用されていたとしている。隣接地域との関係で滋賀県では縄文時代の丸木舟が30艘以上出土し、分布は湖北・湖東・湖西に広がり、特に内湖が存在した湖北・湖東に多い。時期的には縄文中期に出現し、後晩期に増加する。丸底と平底、横帯の有無は同時期に認められ、利用場所は内水面に限定されるとし、これに対して、京都府市舞鶴市裏入遺跡例(縄文前期中葉)は復元すれば8m以上の、鳥浜貝塚例と似た形態となり、同時期で既に外洋交通に利用されていたとしている指摘(注21)は重要である。新潟県青田遺跡でも縄文晩期の丸木舟が1艘検出されており、山田昌久氏は①船底部が平坦にカットされている。②船体の作りが薄い点を特徴としている(注22)。

関西地方

個々の情報が集まらずに、久保田正弘氏の資料による点が多い。弥生時代の船舶の絵画文・土製品が多く検出されており、今後の集成・研究が急務となる。

4. おわりに

野呂山田・内野第1遺跡の舟形土器を追及して東日本全体を資料化してみた。内野第1遺跡の紡錘形の例が石ノ塔遺跡から、72号住居址出土の例が藤岡神社遺跡から出土していることが確認された。筆者

はこれらの舟形土器は舟を模した土器と考えているが、舟形土器とされる多くは低湿地遺跡出土の遺物が示すように舟形容器（木器）を模したものが多い。その中で、中村耕作氏が集成・検討した土器が葬送儀礼に深く関与していることは、出土状態・分布状況をみても明確である。しかし、加曾利 B1 式期の西関東地方に爆発的に出現したのみで、それ以後は全く認められない（注 23）。小林八束・長竹・前田遺跡等、加曾利 B 2 式期以降の墓塚群では伴う土器が小形の注口土器や鉢形土器となり、分布の中心も埼玉県北部に移動する。内野第 1 遺跡では人骨の出土は認められたが、明確な墓塚は把握できない例が多かった（注 24）。ほぼ同じ時期に東関東に分布する部室貝塚例の在り方も今後の課題であろう（注 25）。特に千葉市周辺では後期初頭の段階で石棒の石質が、安山岩から緑泥片岩に一変する。その社会的変化の追及も重要であるが、産地からの流通網の変化や周辺遺跡との関係の変化を追及することは重要である。鹿島側下流の上谷津遺跡 2 号住居址からは 90 cm 近い緑泥片岩製の両頭石棒が出土しているが、これを石棒製作址からの運搬には当然丸木舟の存在を考慮しなければならない。このような集落の在り方の他に、従来研究が遅れている丸木舟の研究も今後の問題となる（注 26）。

今回および次回（土版）の資料の集成には、各市町村教育委員会・埋蔵文化財センター・博物館等の協力によるところが多い。それにも増してこのような研究の場所を提供して頂いた千葉市教育委員会・千葉市埋蔵文化財センターおよび発表の場と資料の提供をして頂いた千葉市立加曾利貝塚博物館に心からの感謝を申し上げたい。

注

1. 田中英世 1985 「千葉市野呂山田貝塚出土の舟形土器―鹿島川流域の縄文時代の遺跡(2)―」『貝塚博物館紀要第 12 号』千葉市立加曾利貝塚博物館
2. 田中英世・古谷渉 2001 『千葉市内野第 1 遺跡発掘調査報告書』(財)千葉市文化財調査協会
3. 「千葉県の歴史」では縄文時代の住居跡 165 軒とされ、教育委員会の報告書では 125 軒とされている。また古墳時代は、両者共に住居跡は 311 軒・方墳 16 基とされている。これは、調査担当者と整理担当者が異なるためであり、私は今でもピット等の取捨選択がなされず、確実な把握ができておらず、掘立柱建物跡もさらに数棟存在すると考えている。具体的に公表したのは、2004(平成 16)年に千葉市立加曾利貝塚博物館で行なわれた郷土史講座であり、今後の公表資料は同資料をほぼ踏襲している。なお、掘立柱建物跡については、再度原図から確認する予定である。
4. 関口 満 1993 「部室貝塚出土の『舟形器』―その形態的特長と文様について―」『玉里村立資料館報第 5 号』同資料館
中村耕作 2005 「縄文時代後期の舟形土器」『上代文化第 39 号』國學院大學考古学研究会
5. 西村眞次 1916 「小谷沼発見の刳舟に就いて」『人類学雑誌第 31 卷第 2 号』日本人類学会
西村眞次 1915 「鉦切船越神社の刳舟」『人類学雑誌第 31 卷第 10 号』日本人類学会
大野雲外 1925 「舟形土製品寫眞を視て」『古代日本遺物遺跡の研究』磯部甲陽堂
八幡一郎・矢島栄一 1935 「相模国中郡寺山の敷石遺構」『人類学雑誌第 50 卷第 12 号』日本人類学会
6. 高木晃 1999 「久慈市大芦 I 遺跡出土の舟形土製品」『紀要 XV』(財)岩手県文化振興事業団
深澤芳樹 2014 「日本列島における原始古代の船舶関係出土一覧」『国際常民文化研究叢書 5』神奈川大學
後藤勝彦・相沢淳一 2011 「宮城県石巻市南境貝塚出土の「船を描いた線刻礫について」『東北歴史博物館研究紀要第 12 号』同博物館および注 4 文献。
7. 滋賀県文化財保護協会 2007 『丸木舟の時代―びわ湖と古代人』サンライズ出版

- 石川県埋蔵文化財センター2014「平成 25 年度環日本海交流史調査研究記録集の記録」『石川県文化財情報第 31 号』同文化財センター
8. 設楽博巳他 2005『水辺と森と縄文人』国立歴史民俗博物館・東北歴史博物館・新潟県立歴史博物館
渋谷孝雄・二宮敏郎他 2018「森と暮らせば」『第 24 回企画展図録』山形県立うたむき風土記の丘考古資料館
9. 春成秀爾 2003「考古資料の偽造と誤断」『国立歴史民俗博物館研究報告書 108 号』
10. 中村耕作氏は文様によりⅢ～Ⅷに分類している。部室貝塚例はⅣ類で加曽利貝塚でも出土している。
11. 栗島義明「蘇る縄文」『第 24 回企画展図録』さいたま県立川の博物館
2010「下田遺跡-水辺に暮らした縄文人-」『パンフレット』太田市教育委員会
村田章人・吉岡卓真他 2007「後谷遺跡」『第 4 次調査第 3 分冊』桶川市教育委員会
12. 草加市長衛門(前期)・さいたま市大道東・寿能泥炭(中期後半)・膝子・南鴻沼・伊奈町伊奈氏屋敷(晩期)・川越市中老袋(後・晩期)・川口市赤山陣屋遺跡・東京都北区中里貝塚等から丸木舟が出土している。
澤柳秀実・上沼佑佳 2014「縄文人のタイムカプセル-南鴻沼遺跡の成果から-」『第 39 回特別展図録』さいたま市立博物館
2003「水場のある集落(白岡町清左衛門遺跡第 5・6 次調査)-さいたま埋文リポート 2011」
『財埼玉県埋蔵文化財調査事業団年報 31-平成 22 年度』同事業団
2003「大木戸遺跡-さいたま埋文リポート 2016」『財埼玉県埋蔵文化財調査事業団年報 32-平成 23 年度』同事業団
13. 杉山寿栄男 1928『日本原始工芸』工芸美術研究会
14. 青森市教育委員会 2003「縄文人の台所・水さらし場遺構を考える-縄文人は水とどうかかわってきたか-」『平成 14 年度 縄文講座』
岩手県立博物館 1993「亀ヶ岡文化の北と南」『じょうもん発信展開連事業』岩手県立博物館・岩手県教育委員会
15. 川口亮・村椿篤史他 2010~2013「東北大学所蔵の麻生コレクション」『秋田考古学第 54~57 号』同考古学会
日本考古学協会 2001「亀ヶ岡文化-集落とその実体-」
渋谷孝雄・二宮敏郎他 2018「森と暮らせば」『第 24 回企画展図録』山形県立うたむき風土記の丘考古資料館
弘前大学日本考古学研究室の一連の研究報告等。
16. 八幡一郎 1943「骨製針入」『古代文化第 14 卷 8 号』日本古代文化学会
17. 北海道の舟形土器 35 個体に検討を加え、大洞 A~A' に盛行し墓壙に伴う例が多いとしている。
鷹野光行 1983「舟形土器について」『御茶の水女子大学人文科学紀要 36』同大学
2002「再び舟形土器について」『お茶の水女子大学附属高等学校紀要 48』同高等学校
18. 猪狩忠雄 1987「龍門寺式土器をめぐる諸問題」『いわき地方史研究第 24 号』同研究会
19. 北海道立埋蔵文化財センター2004「9. 特別展示概要(1)「交流の考古学 3-舟」『年報 9-平成 19 年度(2007)年度』同センター 北海道の船に関する資料は同書に詳しい。
20. 山田晃弘氏は「漆を塗らない白木の容器は、基本的に調理・加工を主とする作業用と考えられています。…舟型容器とよばれるものもこれらと同じ用途が予想されるでしょう。」としている。
設楽博巳他 2005『水辺と森と縄文人』国立歴史民俗博物館・東北歴史博物館・新潟県立歴史博物館
21. 小島秀彰 2014「福井県三方五湖周辺における舟と水上交通」『石川県文化財情報第 31 号』同文化財センター
22. 山田昌久 2004「青田遺跡の木質遺物から議論できること」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 133 集』新潟県教育委
23. 中村耕作氏によれば、墓壙に伴う舟形土器は「堀之内 2 式新段階以降定着した土器形式であり、加曽利 B1 式期までその

大多数が西関東に分布し、その半数が墓塚からの出土という極めて特徴的な土器である(中村 2005)。」と述べている。堀之内 2 式新段階では 2 列、加曾利 B 1 式では 26 列あるのに対して B 2 式以降は全くみられない。

中村耕作 2013 「第 5 章 土器副葬と土器被覆葬—カテゴリーの供有と対立—」『縄文土器の儀礼利用と象徴』アム・プロモーション

24. 明確な墓塚が確認できたのは 2 号人骨と 3 体合葬の 10~12 号の 2 例のみである。黒色土内の遺構の存在で掘り込みを見逃した可能性がある。4~7 号人骨も埋葬方位はほぼ一致しているが、6 号人骨のみ埋葬形態が異なっている。それらについては、今後検討を加えたい。

25. 部室貝塚例の最終形として、安行 3c 式の菅野遺跡群・裏慈恩寺遺跡例の可能性はある。

26. 緑泥片岩の産地は荒川上流の秩父三波川帯で、石棒製作が確認されているのは原産地から離れた古利根川上流の原ヶ谷戸遺跡である。しかし同遺跡からは後期以降の細形の石棒素材が多く、大型素材を大量に確保していた形跡はないようである。栗島義明氏によれば、下総台地で利根川水系に立地する遺跡は貝の花・堀之内貝塚の 2 遺跡のみで、他の下ヶ宮前・内野第 1・上谷津遺跡は鬼怒川水系に位置し、内野第 1 遺跡では 67 cm、銚子市余山貝塚では上谷津遺跡と同じくらい(83 cm 程)の石棒が出土しており、今後追及すべき課題としている。

栗島義明 2012 「緑泥片岩製石棒に見る需給システム」『埼玉県立史跡の博物館紀要第 6 号』埼玉県立さきたま史跡の博物館

南足柄市五反畑遺跡では加曾利貝塚大型住居から出土した異形台付土器が出土している。同遺跡は石棺墓群と安山岩系石棒製作址として知られているが、同遺跡から舟形土器の出土有無は不明である。加曾利貝塚の大型住居出土の石棒が緑泥片岩であるのに対して、同遺跡が安山系である点も不思議である。なお同遺跡からは、茨城県小野天神前遺跡出土の亀型土製品に類似する遺物も出土している。

安藤文一 1998 「五反畑遺跡」『第 22 回神奈川県遺跡研究・発表会』

1999 「五反畑遺跡」『郷土資料館調査報告書第 9 集—塚田遺跡を中心に (特別展解説者)』南足柄市郷土資料館

参考文献

石川日出志 1985 「中部以西の縄文晩期浮線文土器」『信濃第 37 巻第 4 号』信濃史学会

石川日出志 1995 「工字文から流水文」『みずほ第 15 号』大和弥生文化の会

設楽博巳 2004 「遠賀川系土器における浮線文土器の影響」『島根県考古学会誌第 20・21 集合併号』島根県考古学会

久田正弘 2007 「石川県を中心とした縄文時代晩期中葉から後葉の土器編年について」『石川県考古学会会誌第 55 号』石川県考古学研究会

久田正弘 2008 「北陸地方の農耕社会の形成」『弥生ムラの風景』石川県立歴史博物館

湯尻修平 2012 「北陸西部の浮線文土器(1)」『石川県考古学会会誌第 55 号』石川県考古学研究会

荒川隆史 2002 「川辺の縄文集落」『シンポジウム「よみがえる青田遺跡」』新潟県教育委員会

舟形土器一覽表

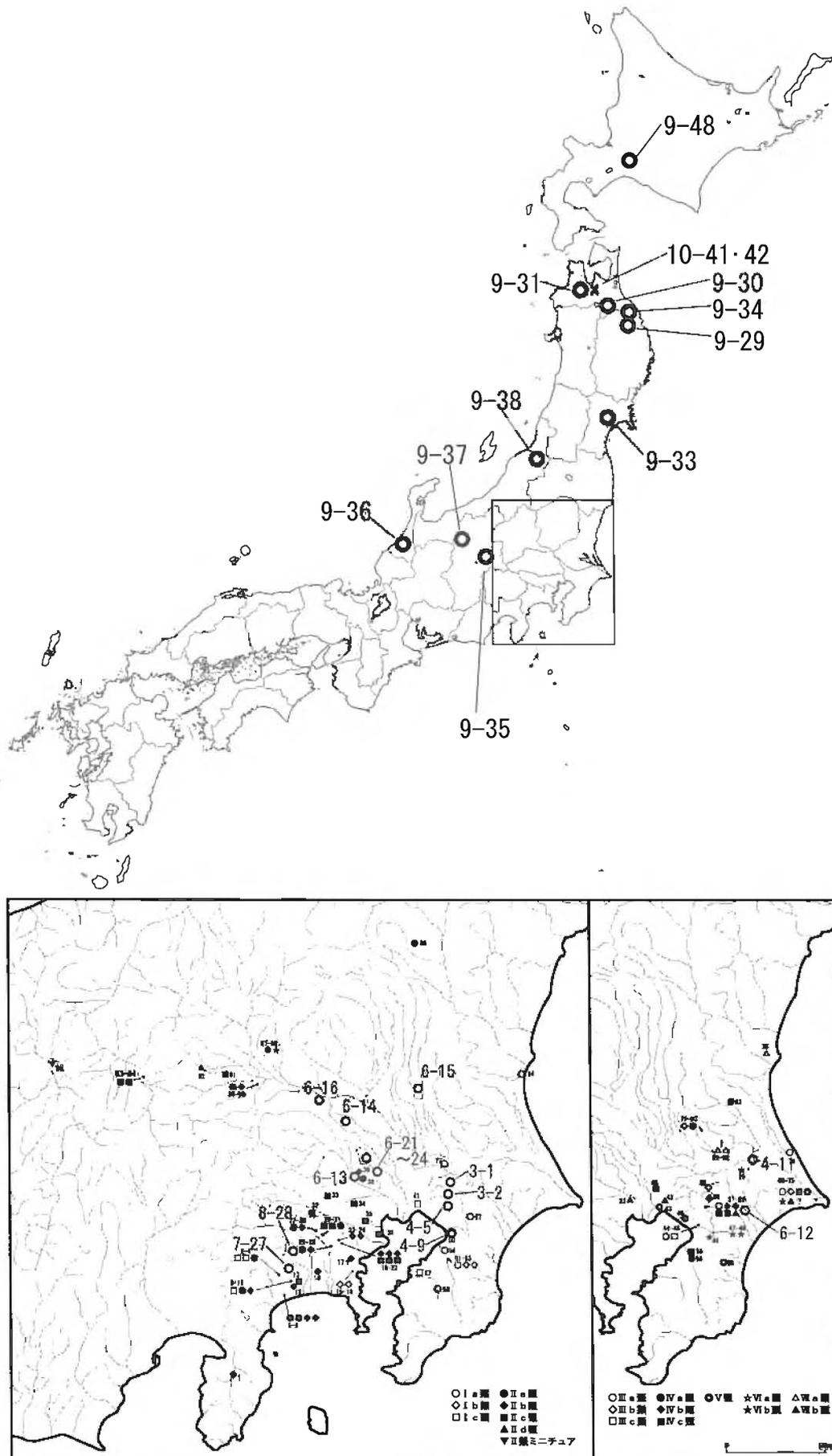
合併後市町村名	遺跡名	口縁部			底部		器種	残存度	出土状態	時期	中村分類	報告No.	備考	文献		
		長辺	短辺	器高	長辺	短辺										
千葉市 下里町	内野第一遺跡	17.00	9.09	1.09	丸底		浅鉢	下半部1/2	J-20	安2				田中英世・古谷沙弥 2001 『内野第1遺跡発掘調査報告』(財)千葉市文化財調査委員会 2007 『非戸遺跡と内野第1遺跡』『貝塚博物館紀要第31号』千葉市立加曾利貝塚博物館		
		—	—	(1.2)	(6.0)	(3.5)	浅鉢	完形	J-76	安2	47	VI b	336 [4]			
		11.60	8.24	4.30	6.3	—	浅鉢	完形	J-76	安2	48	VI b	336 [4]			
		10.00	6.60	3.10	—	8.2	浅鉢	1/3	遺構外(21 E-14d)	加B2			17 [4]		121	
		—	—	—	—	—	浅鉢	1/3	遺構外(21 V-21a)	加B2			17 [4]		236	
	15.0	26.8	3.10	10.0	10.0	浅鉢	口縁部欠損	1/2身位	阿玉					河口謙一 1997 『佐野遺跡』『千葉市郷土博物館発掘調査報告書』同市文化財調査委員会		
	13.7	8.5	11.4	4.0	3.5	浅鉢	2/3		阿玉		19	III b		2015 『遺構探検』『江戸を支たてたの瀬谷古資料一覧』『佐野遺跡土器調査報告』東京府江戸東京博物館		
	加曾利貝塚	加曾利貝塚	17.0	—	8.0	丸底		浅鉢	完形	C1地点	加B	44	III a	41 [4]	1937 『千葉市下里町加曾利貝塚発掘調査報告』『史前学雑誌第9号第1号』史前学会 1968 『加曾利貝塚』	
			9.8	—	(5.0)	丸底		浅鉢	完形	I	加B			41 [4]	5	
			19.5	13.6	7.0	6.0	6.0	浅鉢	完形	IIIトレンチ	加B			3-119 [4]	151	
12.0			10.0	4.8	丸底		浅鉢	完形	IVトレンチ	加B			3-139 [4]	131		
野高前貝塚	野高前貝塚	16.4	(26.0)	6.5	丸底		浅鉢	1/2	IVトレンチ	加B			46	IV b	10 [4]	1943 『千葉市野高前貝塚の発掘と上層一層の調査』『貝塚博物館紀要第12号』千葉市立加曾利貝塚博物館 1947 『野高前(昭和18年)発掘』千葉市教育委員会
		12.3	9.4	8.1	7.3	5.6	浅鉢	1/3	表層	加B			未報告			
中野橋貝塚	中野橋貝塚	—	—	—	—	—	ミニチュア	1/3	990001	加B			203 [4]	13	1970 『中野橋貝塚』『千葉市文化財センター発掘調査報告』(財)同センター	
非戸貝塚	非戸貝塚	126.0	12.8	(10.4)	—	—	浅鉢					30	I a	147 [4]	5 1979 『千葉市非戸貝塚発掘調査報告』『千葉市文化財センター発掘調査報告』(財)同センター	
六通貝塚	六通貝塚	—	—	—	—	—	浅鉢	1/3	表層	加B			未報告			
		(30.0)	20.0	(11.3)	—	—	浅鉢	胴部上半		安3b			153 [4]	770		
		—	—	—	—	—	浅鉢	完形					7 [4]	5		
千葉市 市川市	貝ノ花貝塚	18.0	12.5	6.0	丸底		浅鉢	完形			10	IV e	225 [4]	6	1973 『貝ノ花貝塚』千葉市教育委員会	
		(24.0)	—	(8.2)	丸底		浅鉢	両先端欠損					PL 59		1992 『千葉市立考古学資料館』『千葉市立考古学資料館』市川市立考古学資料館	
		21.8	15.0	10.5	—	—	浅鉢	完形					41 [4]	I c	16 -12	1971 『山崎貝塚』『市川市史』吉田忠文
		(19.0)	(15.0)	7.0	—	—	浅鉢	完形					42 [4]	IV b	17 10	2005 『縄文土器収蔵資料』『千葉県の歴史 資料編第4号』千葉県
10.5	7.8	4.0	丸底		浅鉢	完形						16 59	16	無文	2010 『千葉 縄文時代 中央貝塚』『千葉市史 資料編(考古)』同市文化財調査委員会	
鎌倉市 津島町	井野長瀬遺跡	(14.0+31.7)	(18.5)	9.5	—	—							135 [4]	376	2015 『井野長瀬遺跡(第1次発掘)』『鎌倉市文化財センター発掘調査報告第36集』(財)同センター	
		(16.5)	(26.6)	7.5	(12.7)	(15.2)							135 [4]	317		
		(14.5)	(18.5)	9.5	—	—	浅鉢	完形	調子2黒色土層	晩期			IV b	57 [4]	95	
		(12.8)	(11.0)	5.5	—	—	ミニチュア	2/3						116 [4]	21	
		(7.0)	(5.0)	(2.0)	丸底		ミニチュア	2/3						116 [4]	21	
	14.0	9.2	5.0	丸底		浅鉢	完形	I地区1土坑	IV c	研	I a	76 [4]	25	無文	1995 『千葉市津島町内井野遺跡』『鎌倉市文化財センター発掘調査報告第136集』(財)同センター	
	宮内井戸遺跡	宮内井戸遺跡	(25.4)	(8.0)	2.3	底部欠		浅鉢	胴部1/2	I地区2土坑	加B2			76 [4]	25	
			8.6	3.2	—	丸底		ミニチュア	完形	2区337土坑	安3a			85 [4]	4	
			(8.5)+	4.5	2.0	—	—	ミニチュア	破片	2区Q-25-49	加B2			125 [4]	8	
			14.9	5.0	—	丸底		浅鉢	完形	II-2区01-25	加B2			145 [4]	12	
8.5			5.5	2.1	丸底		ミニチュア	完形	III区L26-429	加B			180 [4]	58		
7.5	4.0	2.9	丸底		浅鉢	完形	III区N25-58	加B			209 [4]	120	無文			
6.3	4.0	3.5	丸底		ミニチュア	完形	III区M25-48	加B			209 [4]	120	無文			
7.7	9.8	(5.0)	—	—	浅鉢	底部欠	III区Q-25-49	晩期	堀1			231 [4]		無文		

合併後市町村名	遺跡名	口縁部			底部		器種	残存度	出土状態	時期	中村分類	報告No	備考	文献	
		長辺	短辺	器高	長辺	短辺									
		(12.0)	8.9	3.8	(5.0)	8.9	浅鉢	1/2	III-2区L26-32	加B3		249 図 67	平鉢口縁下無文帯。沈線1条下縁文+並列楕円状沈線		
		11.2	4.8	5.0		丸底	浅鉢	完形	III-2区L26-41	加B1		23 I 図 7 I	無文。14佐床+30.2cm		
		10.9	(5.9)	5.0		丸底	浅鉢	一部欠損	III-3区12住	加B2		261 図 3	4単位の瘤形突起より欠損。縄文+沈線2条		
		20.7	12.0	(7.0)	(7.0)	(6.0)	鉢	完形	III区N25-06	加B2		289 図 95	長軸口縁一方に把手+乳。乳を囲む刺突+沈線2条。		
		7.7	4.7	3.0		丸底	動物形土製品	完形	III区K26-30			397 図 9	平鉢口縁。長軸方向山状突起。短軸方向B形突起。沈線文。14佐床+43.8cm		
	吉見台遺跡	—	12.6	5.9		丸底	浅鉢	2/3	143住居内	加B		33 図 3	長軸方向に波状突起。胴部縄文。口縁部木の沈線。	山岸良二 1983 『佐倉市吉見台遺跡発掘調査報告Ⅱ』同市遺跡調査会	
	吉見台A地点	(5.5)	(2.5)	2.3	3.0	2.2	ミニチュア	完形	包含層	加B	62	VII b	55 図 58 136 図 2124	口縁下水平な隆帯。無文 平鉢口縁。長軸口縁一方に把手。全面縄文	林山利之 1999 『千葉県佐倉市吉見台遺跡A地点』『印旛都市文化財センター発掘調査報告159集』(財)同センター
		(20.0)	—	6.8	—	—	—	—	包含層		63	IV c	136 図 2127	平鉢口縁。長軸口縁一方に把手。縄文+十字状無文帯	
		13.6	9.0	6.9	—	—	—	—	包含層		64	IV b	136 図 2129	平鉢口縁下沈線1条。長軸口縁一方に把手。弧状縄文+無文	
		23.3	—	(9.0)	—	—	—	—	包含層		65	IV b	136 図 2128	平鉢口縁。長軸口縁一方に把手。縄文+2条無文帯	
		(25.1)	19.4	10.0	—	—	—	—	包含層		66	IV c	136 図 2130	短い波状口縁下縁刺突文。短軸口縁一方に筋。縄文+入組無文帯	
	向原遺跡	(25.2)	(19.0)	(11.0)	(14.0)	(9.0)	鉢	図上復元	4号住居址	諸B		61 図 16	汎形による米の穂文を描く	大原正義 1989 『佐倉市向原遺跡』『千葉県文化財センター発掘調査報告第167集』(財)同センター	
		6.8	3.6	5.9		丸底	ミニチュア	完形					無文	穂越正行他 2014 『佐倉第三工業団地内』『佐倉市史 資料編』佐倉市	
八千代市	ツナル山遺跡	23.2	13.2	9.2	12.6	9.4	注口浅鉢	完形		阿玉		114 図	中央部に凹形。左右に半強状長起線を配して2列の内形竹葉文を施す	成田正一・森岡孝司他 1986 『八千代市ツナル山遺跡』『千葉県文化財センター発掘調査報告第117集』(財)同センター	
印西市	吉高一木松遺跡	14.6	10.4	3.1		丸底	浅鉢	完形	表面採集	加B	68	III b	表面採集	原田高六・市原知之 1985 『印旛郡向原における縄文遺跡の研究』『昭和62年度』開国4誌	
	馬場遺跡第5地点	9.3	7.3	3.1		丸底	ミニチュア	完形	2号住居	安3 d		15 図 72	底縁前突起孔より削り平円状沈線+弧状沈線	菅多裕明 2011 『遺跡1号墳(馬場・遺跡2)』『印旛都市文化財センター発掘調査報告第159集』(財)同センター	
		(22.0)	(21.7)	3.6		丸底	—	—	—			23 図 36	—		
市原市	西広貝塚	16.34	10.36	16.2	11.0	6.8			D4区40層	安3 d 阿高		5 図 1 23 図 110	底口空 近縁筋 額間突	1977 所収貝塚。『土曜同発掘調査報告書』市原市教育委員会 1993 『市原市内出土の非在地系土器』『市原市文化財センター研究紀要Ⅱ』同センター 2005 『西広貝塚』『市原市文化財センター調査報告93』(財)同センター	
	武士遺跡	19.8	15.5	7.8	—	—	鉢	2/3	637号主墳遺構外		51	I a	1008 図 1	箱崎宗孝 1998 『市原市武士遺跡2』『千葉県文化財センター発掘調査報告第322集』(財)同センター	
		18.8	16.0	7.0	—	—	—	—	遺構外		52	I b	1077 図 79		
		18.4	9.6	10.0	—	—	—	—	遺構外		53	I b	1091 図 135		
	紙園原貝塚	14.9	—	7.5	—	—	—	—	—		54	I a	47 図 75	意成成規 1999 『紙園原貝塚』『土曜同発掘調査報告書Ⅱ』市原市教育委員会	
		9.2	12.2	9.9	—	—	—	—	—		55	IV c	540 図 468		
木更津市	伊豆島貝塚	17.4	—	8.8	—	—	—	—	貝層		57	III b	5 図 24	後井清芳・高橋隆三郎 1983 『高橋隆三郎発掘調査報告書』『千葉県貝塚と内閣省・伊豆島貝塚・三ツ貝塚の調査』上巻について。早稲田大学考古学研究室	
君津市	寺ノ代遺跡	12.6	10.4	6.8	—	—	—	—	遺構外		58	I a	65 図 55	小井清芳・高橋隆三郎 2001 『高橋隆三郎発掘調査報告書』『千葉県文化財センター発掘調査報告第413集』(財)同センター	
茂原市	下太田貝塚	15.3	13.2	5.4	—	—	—	—	1地点包含層3層		59	V	137 図 192	菅谷通保 2003 『下太田貝塚』『千葉県文化財センター調査報告第93集』(財)同センター	
銚子市	糸山貝塚	24.0	15.5	6.0	—	—	鉢	—	遺構外		69			山崎真治 2005 『縄文土器の調査報告』『千葉県文化財センター調査報告第413集』千葉県	
		(28.9)	18.7	(8.0)	—	—	鉢	—	—		70	III b			
		(24.2)	—	(7.0)	—	—	鉢	—	—		71	VI b			
		13.6	11.0	7.1	—	—	鉢	—	—		72	III a			
		28.8	13.2	7.0	—	—	鉢	—	—		73	V			
		15.2	12.2	8.4	—	—	鉢	—	—		74	IV c			
				11.0	—	—	鉢	—	—		75	IV a	図版 128		
千代田市	三ツ名遺跡	11.0	10.8	1.5	—	—	浅鉢	完形	窪田区	加B			挿入図3	小川信博 1992 『第二期 縄文時代』『千代田市 通史 図説』千代田市	
神埼町	武田新貝塚	11.6	—	5.6	—	—	—	—	B1区混土貝層		76	IV a	14 図 3	菅谷通保 1981 『千葉県吉野町神埼町武田新貝塚一編』『縄文時代の研究』『古墳時代の研究』開成川下流域の研究』早稲田大学出版部	
	米沢遺跡													菅谷通保 1937 『下関同発掘調査報告書』『千葉県文化財センター調査報告第117集』千葉県	
茨城県	取手市	中妻貝塚	(19.5)	(15.6)	8.4	7.0	6.2	鉢	一部欠損			214 図 2	口縁下に沈線1条以下無文。	鈴木正博・鈴木加津子 1981 『取手と安房文化』『取手町教育委員会』	
		(21.0)	15.6	7.8	—	—	浅鉢	完形			77	I a	突起の単位。長軸1ヶ所に2ヶの貫通孔。扁平状の隆帯。入有筋。		
現明市	片岡遺跡	12.0	11.0	7.0		丸底	浅鉢	完形	S B 5 (住居)	加B	78	III b	Fig 24-4	全面縄文+沈線2条+口縁の中央。異形有孔+刺突+刺突+刺突土器	山口崇・宮崎英和子 1991 『鹿嶋市内遺跡発掘調査報告書Ⅱ』『鹿嶋市の文化財』同市教育委員会
土浦市	上高津貝塚	—	—	—	—	—	—	—	X-V層		79	III b	21 図 5	口縁下3帯の縄文帯+沈線3条+右向沈線2条。	1991 『土浦市定規上高津貝塚A地点』土浦市教育委員会
		—	—	—	—	—	—	—	VI層		80	IV a	6 図 2		
福敷市	椎塚貝塚	19.3	13.3	6.3		丸底	浅鉢	完形	貝層		81	IV a	巻末図版22		八木隆三郎・津村三郎吉 1893 『鹿嶋市椎塚貝塚発掘報告』『千葉県文化財センター調査報告第117集』同市教育委員会
(江戸崎町)		13.0	7.2	6.0		丸底	浅鉢	完形	貝層		82	IV a	巻末図版29		

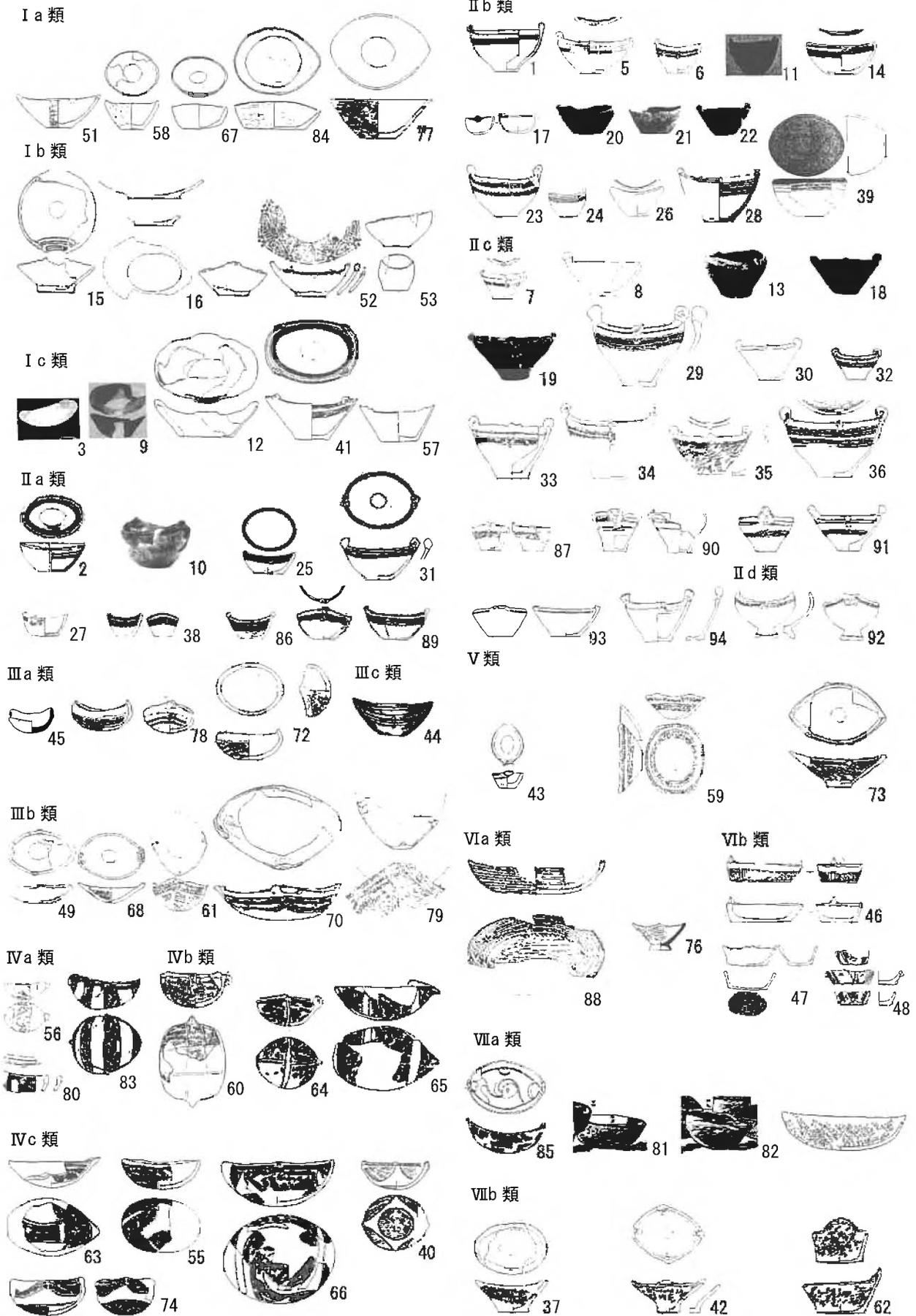
児島市	御堂貝塚	12.3	7.3	3.0		丸底	浅鉢	完形				IV a	2	10		開口部	2000	『高松市出土の「最上土器」—その形質的特徴と文化的背景について—』『土器出土資料館報第3号』同発刊部			
大津町	大貫津北貝塚	20.3	15.7	6.6		丸底	浅鉢	完形	5遺物包括層15c区		81	I a	58	16		非土器類・埴輪等類	2000	『大貫津北貝塚』『大貫津北貝塚文化財発掘調査報告書』同発刊部			
高松市	三反目貝塚貝塚	16.1	10.9	7.0		丸底	浅鉢	完形			85	VII a	6	1		開口部	2000	『高松市出土の「最上土器」—その形質的特徴と文化的背景について—』『土器出土資料館報第3号』同発刊部			
津田町	青十北遺跡	—	—	—	—	—	—	—	最上土器	完形											
高松市	小堀遺跡	—	—	4.2	6.6	3.2								168	14	79	人手製泥器・完形土器・土俵類	1956	『高松市出土の「最上土器」—その形質的特徴と文化的背景について—』『土器出土資料館報第3号』同発刊部		
備考欄																					
高松市	赤松神社遺跡	14.62 11.74	—	10.7 3.46	9.22 5.1	—	—	—	ミニチュア ミニチュア	完形 完形	遺構外 遺構外			214	14	1	原文・写経用	1939	『高松市出土の「最上土器」—その形質的特徴と文化的背景について—』『土器出土資料館報第3号』同発刊部		
		(10.0)	4.58	8.0	4.58	—	—	—	ミニチュア	1/2	遺構外			214	14	3	口縁一突起。胴部一指ナゲ。				
		(3.93)	—	7.0	—	—	—	—	ミニチュア	1/2	遺構外			214	14	4	胴部一指ナゲ。				
		6.62	3.36	10.5	3.11	1.98	—	—	ミニチュア	完形	遺構外			214	14	5	口縁一突起。胴部一指ナゲ。				
		(5.47)	4.53	8.0	3.66	—	—	—	ミニチュア	完形	遺構外			214	14	6	胴部一指ナゲ。				
		4.62	—	5.0	3.15	—	—	—	ミニチュア	完形	遺構外			214	14	7	胴部一指ナゲ。				
		(10.0)	—	2.3	—	—	丸底	浅鉢	完形	1/3	遺構外			215	14	12	長柄一突起。胴部一指ナゲ。胴部一指ナゲ。				
		—	—	2.3	(3.5)	—	—	—	ミニチュア	1/5	遺構外			238	14	125	長柄一突起。胴部一指ナゲ。胴部一指ナゲ。				
小山市	寺野東遺跡	8.5	5.3	3.6	—	—	—	—	ミニチュア	完形	遺構外			511	14	1	原文	1997	『寺野東遺跡』『高松市出土の「最上土器」—その形質的特徴と文化的背景について—』『土器出土資料館報第3号』同発刊部		
		6.7	4.7	4.1	—	—	—	—	ミニチュア	完形	遺構外			541	14	2	丸底部は口縁				
		4.4	2.9	1.2	—	—	—	—	ミニチュア	完形	遺構外			541	14	3	原文				
		10.2	7.1	3.3	—	—	—	—	ミニチュア	完形	遺構外			541	14	4	原文				
		6.9	4.6	3.1	—	—	—	—	ミニチュア	完形	遺構外			541	14	5	輪縁部				
		6.9	4.6	2.3	—	—	—	—	ミニチュア	完形	遺構外			541	14	6	原文				
	乙女下跡原北遺跡	6.0	5.0	2.8	—	—	丸底	浅鉢	ミニチュア	3号土俵				89	14	12	口縁部は口縁・底縁	1982	『乙女下跡原北遺跡発掘調査報告書』『高松市出土の「最上土器」—その形質的特徴と文化的背景について—』『土器出土資料館報第3号』同発刊部		
高松市	高松遺跡	(11.4)	10.1	—	—	—	丸底	浅鉢	完形					96	I a	17	14		1995	『高松遺跡』『高松市出土の「最上土器」—その形質的特徴と文化的背景について—』『土器出土資料館報第3号』同発刊部	
備考欄																					
大田市	御堂遺跡	10.5	(6.9)	(3.9)	—	—	丸底	浅鉢	2/3	16区				90	14	6	原文	2008	『高松市出土の「最上土器」—その形質的特徴と文化的背景について—』『土器出土資料館報第3号』同発刊部		
(観音寺町)	石之寺遺跡	—	—	—	—	—	—	—	ミニチュア	完形							原文	2010	『高松市出土の「最上土器」—その形質的特徴と文化的背景について—』『土器出土資料館報第3号』同発刊部		
高松市	大道遺跡	(11.4)	10.1	7.8	—	—	—	—	浅鉢	完形				87	II c	95	14	71	平縁口縁。口縁縁部に把手。胴部に施文帯	1991	『大道遺跡』『高松市出土の「最上土器」—その形質的特徴と文化的背景について—』『土器出土資料館報第3号』同発刊部
		29.7	(17.1)	7.4	—	—	—	—	浅鉢	完形				88	IV a	21	14		平縁口縁。口縁縁部に把手。胴部に施文帯		
高松市	谷地遺跡	15.6	13.2	7.6	—	—	—	—	浅鉢	完形				89	II a	97	14	27		1958	『谷地遺跡』『高松市出土の「最上土器」—その形質的特徴と文化的背景について—』『土器出土資料館報第3号』同発刊部
		13.6	(11.6)	10.0	—	—	丸底	浅鉢	ミニチュア	1/2				90	II c	97	14	28			
		(5.0)	4.0	3.5	—	—	—	—	浅鉢	1/2				179	14	11	断面半円状。長軸方向に取っ手。施文				
		16.0	14.0	8.0	6.0	—	—	—	浅鉢	1/2				181	9	24					
安中市	天神原遺跡	18.0	12.8	10.8	—	—	—	—	浅鉢	完形				91	II b	199	14	17		2001	『高松市出土の「最上土器」—その形質的特徴と文化的背景について—』『土器出土資料館報第3号』同発刊部
(松井田町)	五科野々久保遺跡	14.1	12.6	12.6	—	—	—	—	—	—				92	II d	100	14	40		1997	『高松市出土の「最上土器」—その形質的特徴と文化的背景について—』『土器出土資料館報第3号』同発刊部
岡生市	手洞谷戸遺跡	17.2	—	4.2	丸底	浅鉢	浅鉢	1/3	石塚	安3a						10	14	41		1950	『高松市出土の「最上土器」—その形質的特徴と文化的背景について—』『土器出土資料館報第3号』同発刊部
		33.6	25.5	7.8	丸底	浅鉢	浅鉢	完形	石塚	千制						11	14	74		1987	『高松市出土の「最上土器」—その形質的特徴と文化的背景について—』『土器出土資料館報第3号』同発刊部
		10.2	5.4	3.0	丸底	浅鉢	浅鉢	完形	見附宅1号住居	千制						24	14	83		1978	『高松市出土の「最上土器」—その形質的特徴と文化的背景について—』『土器出土資料館報第3号』同発刊部
高松市	高松遺跡	—	4.0	3.6	丸底	浅鉢	浅鉢	完形	一筋欠損	調査区				252	14	14	原文	1999	『高松市出土の「最上土器」—その形質的特徴と文化的背景について—』『土器出土資料館報第3号』同発刊部		
備考欄																					
高松市	高松遺跡	49.2	14.2	18.5	—	—	—	—	非土器類	完形	3号土俵遺構	加B1			127	14	1	原文	2015	『高松市出土の「最上土器」—その形質的特徴と文化的背景について—』『土器出土資料館報第3号』同発刊部	
高松市	高井東遺跡	12.0	8.7	3.0	丸底	浅鉢	浅鉢	完形	調査区	安3c~d						104	14	27-4	長柄一突起。胴部一指ナゲ。	1974	『高井東遺跡』『高松市出土の「最上土器」—その形質的特徴と文化的背景について—』『土器出土資料館報第3号』同発刊部
	長谷遺跡	(28.6)	(16.0)	9.6	丸底	浅鉢	浅鉢	1/2	調査区	夜期						136	14	59	長柄一突起。胴部一指ナゲ。	2005	『高井東遺跡』『高松市出土の「最上土器」—その形質的特徴と文化的背景について—』『土器出土資料館報第3号』同発刊部
		(19.5)	12.0	7.4	丸底	浅鉢	浅鉢	1/2	調査区	夜期						167	14	14	口縁下に施文帯。胴部一指ナゲ。	2007	『高井東遺跡』『高松市出土の「最上土器」—その形質的特徴と文化的背景について—』『土器出土資料館報第3号』同発刊部
		16.2	13.0	7.0	丸底	浅鉢	浅鉢	2/3	調査区	(J-17)						213	14	1			
		(7.5)	—	(2.5)	丸底	浅鉢	浅鉢	1/3	調査区	(I-16・V層)						213	14	1			
		(10.0)	—	(3.5)	(10.0)	—	—	—	異形土器	1/3	調査区	(III層)				213	14	6	長柄一突起。胴部一指ナゲ。胴部一指ナゲ。		
		(7.0)	6.5	(4.5)	4.5	4.5	ミニチュア	先端欠損								215	14	10	胴部一指ナゲ。		
		(6.5)	6.8	(4.7)	2.0	2.0	ミニチュア	先端欠損								215	14	11	胴部一指ナゲ。胴部一指ナゲ。		

合併後 市町村名	遺跡名	口縁部			底部		器種	残存度	出土状態	時期	中村分類	報告No.	備考	文献						
		長辺	短辺	器高	長辺	短辺														
(大宮市)	東山町遺跡	17.5	14.5	6.5	—	—	式鉢	完形	調査中	201c	12	10	33	「山名古河」1967「国府市東山町遺跡発掘調査報告」『考古学』5号 埼玉考古学会						
	寿徳遺跡	11.6	14.4	—	—	—	式鉢	完形	71	—	—	—	—	「新証(考古学)発掘調査報告」埼玉教育委員会						
	高井町高井遺跡	20.5	16.8	7.0	15.0	3.8	式鉢	完形	35号住居址	岡山	—	—	—	「国府市高井遺跡発掘調査報告第10号」岡通調査会						
	下加遺跡	(12.0)	(11.0)	(9.0)	5.6	5.6	式鉢	完形	14号住居址	加賀	—	—	—	「下加遺跡」『発掘調査報告(第3号)』岡通調査会						
(浦和市)	前方遺跡	8.5	7.5	2.3	15.9	3.5	式鉢	完形	1号住居址	加賀	—	—	—	「浦和市遺跡調査会報告第27号」岡通調査会						
	市川神社遺跡	—	—	4.5	—	—	式鉢	1/2	1号住居址	加賀	—	—	—	「市川神社遺跡」『さいたま市遺跡調査報告第16号』岡通調査会						
(さいたま市)	野馬ヶ原山遺跡	—	(17.4)	—	(12.4)	7.5	式鉢	1/3	1号住居址	加賀	—	—	—	「野馬ヶ原山遺跡」『さいたま市遺跡調査報告第16号』岡通調査会						
	野馬ヶ原山遺跡	—	—	—	—	丸底	式鉢	1/3	1号住居址	加賀	—	—	—	「野馬ヶ原山遺跡」『さいたま市遺跡調査報告第16号』岡通調査会						
東京都																				
町田市	なつな原遺跡	12.3	10.2	4.8	6.6	6.6	式鉢	完形	181号土壇	加B1	25	II a	12	293	「小笠原山」2号土壇と入り子。	成瀬和雄・車久保一	1974	「なつな原遺跡」『発掘調査報告』岡通調査会		
		12.6	9.2	4.5	4.5	4.5	丸底	式鉢	1/3	M6地区	加B1	26	II b	12	312-150	「小笠原山」2号土壇と入り子。土壇か?	成瀬和雄・車久保一	1974	「なつな原遺跡」『発掘調査報告』岡通調査会	
	川端遺跡	14.1	5.1	9.0	5.1	5.1	式鉢	完形	D11土壇	加B1	27	II a	12	12	4	「小笠原山」2号土壇と入り子。	金子信彦・長井貴之	1997	「川端遺跡」『発掘調査報告(第1次)』町田市教育委員会	
	野津田上の原遺跡	10.5	6.6	5.3	6.6	6.6	式鉢	完形	D22土壇	加B1	28	II b	12	12	4	「小笠原山」2号土壇と入り子。	金子信彦・長井貴之	1997	「野津田上の原遺跡」『発掘調査報告(第1次)』町田市教育委員会	
		23.6	—	18.6	—	—	—	—	62号土壇	加B1	29	II c	12	12	3	「小笠原山」2号土壇と入り子。	成瀬和雄・車久保一	1969	「野津田上の原遺跡」岡通調査会	
		15.6	11.2	9.6	—	—	—	—	72号土壇	加B1	30	II c	12	12	7	「小笠原山」2号土壇と入り子。	成瀬和雄・車久保一	1969	「野津田上の原遺跡」岡通調査会	
18.8	13.2	10.0	—	—	—	—	73号土壇	加B1	31	II c	12	12	10	「小笠原山」2号土壇と入り子。	成瀬和雄・車久保一	1969	「野津田上の原遺跡」岡通調査会			
調布市	下石原遺跡	11.6	—	7.5	—	—	—	5K60(土)	加B1	32	II c	31	12	4	「小笠原山」2号土壇と入り子。	新井達也	2008	「下石原遺跡」『発掘調査報告(第1次)』調布市教育委員会		
東村山市	下宅部遺跡	19.8	—	14.8	—	—	片角形木器	2/3	3号水坑遺構	加B1	33	II c	32	12	10	口縁形状・3単位幅・口縁直下隅部下半部欠・胴中央流線2条。	新井達也	2011	「(7)下宅部遺跡」『東村山市教育委員会報告』東村山市史編纂委員会	
		(59.0)	(16.8)	18.0	—	—	—	—	3号水坑遺構	加B1	34	II c	31	12	4	「小笠原山」2号土壇と入り子。	新井達也	2011	「(7)下宅部遺跡」『東村山市教育委員会報告』東村山市史編纂委員会	
三鷹市	丸山遺跡	23.2	—	18.5	—	—	—	—	—	加B1	35	II c	17	12	4	「小笠原山」2号土壇と入り子。	吉田格・山崎裕司	2003	「三鷹市丸山遺跡」『東京都遺跡調査・研究発表会28発表要旨』東京都教育委員会	
	丸山八遺跡	23.2	—	18.5	—	—	—	—	—	加B1	35	II c	17	12	4	「小笠原山」2号土壇と入り子。	吉田格・山崎裕司	2003	「三鷹市丸山遺跡」『東京都遺跡調査・研究発表会28発表要旨』東京都教育委員会	
目黒区	真山貝塚L地点	19.0	14.5	11.5	—	—	—	—	—	加B1	36	II c	17	12	4	「小笠原山」2号土壇と入り子。	目黒区真山遺跡調査会	1998	「真山貝塚L地点」『目黒区歴史文化財調査報告第12号』目黒区歴史文化財調査会	
港区	西久保八幡貝塚	22.0	17.0	16.0	7.6	7.6	式鉢	完形	3区下層貝層	加B1	36	II c	20	12	200	「小笠原山」2号土壇と入り子。	後藤子昭二	1987	「西久保八幡貝塚」『発掘調査報告(第19号)』港区教育委員会	
北区	西ヶ原遺跡	12.8	12.0	4.8	—	—	式鉢	1/2	—	加B1	37	III b	334	22	20	口縁形状・3単位幅・口縁直下隅部下半部欠・胴中央流線2条。	西澤明	2011	「西ヶ原貝塚」『東京都歴史文化財センター調査報告第262号』同センター	
		(10.6)	6.0	3.0	—	—	—	—	—	加B1	37	III b	22	22	20	口縁形状・3単位幅・口縁直下隅部下半部欠・胴中央流線2条。	西澤明	1994	「西ヶ原貝塚」『東京都歴史文化財センター調査報告第262号』同センター	
(15.6)	11.2	2.7	6.0	2.8	—	—	式鉢	2/3	—	加B1	37	III b	22	22	20	口縁形状・3単位幅・口縁直下隅部下半部欠・胴中央流線2条。	西澤明	1994	「西ヶ原貝塚」『東京都歴史文化財センター調査報告第262号』同センター	
神奈川県																				
横浜市	扇山貝塚	(20.1)	19.6	8.1	—	—	式鉢	完形	2地点貝層外	加B1	—	—	—	—	—	「小笠原山」2号土壇と入り子。	上野元太郎	2022	「扇山貝塚」『発掘調査報告(第13号)』同財団	
		9.7	5.8	4.0	4.5	3.6	式鉢	完形	表面採集	加B1	17	II b	67	12	6	口縁形状・3単位幅・口縁直下隅部下半部欠・胴中央流線2条。	上野元太郎	2007	「扇山貝塚」『発掘調査報告(第13号)』同財団	
	扇山北遺跡	(16.8)	(16.8)	12.0	—	—	式鉢	2/3	8号土壇	加B1	—	—	—	—	—	「小笠原山」2号土壇と入り子。	西井亮	2007	「扇山北遺跡」『発掘調査報告(第13号)』同財団	
	三の丸遺跡	9.5	7.5	6.0	4.5	3.5	式鉢	完形	B153号土壇	加B1	18	II c	12	12	3	「小笠原山」2号土壇と入り子。	西井亮	1983	「三の丸遺跡」『発掘調査報告(第13号)』同財団	
		9.0	6.7	4.0	4.5	3.5	式鉢	完形	B162号土壇	加B1	19	II c	12	12	3	「小笠原山」2号土壇と入り子。	西井亮	1983	「三の丸遺跡」『発掘調査報告(第13号)』同財団	
		15.0	9.5	7.6	9.0	7.0	式鉢	完形	B172号土壇	加B1	20	II c	12	12	3	「小笠原山」2号土壇と入り子。	西井亮	1983	「三の丸遺跡」『発掘調査報告(第13号)』同財団	
	12.0	9.2	4.5	6.0	5.0	式鉢	完形	B181号土壇	加B1	21	II c	12	12	3	「小笠原山」2号土壇と入り子。	西井亮	1983	「三の丸遺跡」『発掘調査報告(第13号)』同財団		
	小丸遺跡	17.6	9.2	12.4	4.5	3.5	式鉢	完形	B264号土壇	加B1	22	II c	12	12	3	「小笠原山」2号土壇と入り子。	西井亮	1983	「三の丸遺跡」『発掘調査報告(第13号)』同財団	
		8.8	7.2	7.0	6.0	5.0	式鉢	完形	2号住居址	加B1	23	II b	11	12	3	「小笠原山」2号土壇と入り子。	西井亮	1999	「小丸遺跡」『発掘調査報告(第13号)』同財団	
	華蔵台遺跡	(12.0)	(16.0)	7.6	6.0	4.0	式鉢	完形	2号住居址	加B1	24	II b	20	12	3	「小笠原山」2号土壇と入り子。	西井亮	2008	「華蔵台遺跡」『発掘調査報告(第13号)』同財団	
		12.0	8.8	8.0	6.8	5.2	式鉢	完形	31号土壇	加B1	—	—	—	—	—	「小笠原山」2号土壇と入り子。	西井亮	2008	「華蔵台遺跡」『発掘調査報告(第13号)』同財団	
	磯崎市	上土御前遺跡	15.2	11.9	6.7	—	—	式鉢	完形	J4号土壇	加B1	14	II b	62	12	—	「小笠原山」2号土壇と入り子。	磯崎市教育委員会	1983	「上土御前遺跡」『発掘調査報告(第13号)』同財団
			14.1	9.1	10.1	5.2	4.2	式鉢	完形	—	加B1	—	—	—	—	—	「小笠原山」2号土壇と入り子。	磯崎市教育委員会	2008	「上土御前遺跡」『発掘調査報告(第13号)』同財団
			14.2	11.2	(7.8)	—	—	式鉢	底部欠損	—	加B1	—	—	—	—	—	「小笠原山」2号土壇と入り子。	磯崎市教育委員会	2008	「上土御前遺跡」『発掘調査報告(第13号)』同財団
24.6			26.4	10.8	6.8	6.8	式鉢	完形	—	加B1	—	—	—	—	—	「小笠原山」2号土壇と入り子。	磯崎市教育委員会	2008	「上土御前遺跡」『発掘調査報告(第13号)』同財団	
平塚市	王子ノ台遺跡	16.0	—	—	—	—	式鉢	完形	—	加B1	9~11	106	106	338	—	「小笠原山」2号土壇と入り子。	秋田かの子	1997	「王子ノ台遺跡」『発掘調査報告(第13号)』同財団	
	原口遺跡	(24.1)	(16.4)	(8.4)	—	—	—	—	—	加B1	12	II b	—	—	—	「小笠原山」2号土壇と入り子。	秋田かの子	2002	「原口遺跡」『発掘調査報告(第13号)』同財団	
伊勢原市	駒形遺跡	—	—	—	—	—	—	—	—	加B1	13	II c	106	—	—	「小笠原山」2号土壇と入り子。	秋田かの子	1997	「駒形遺跡」『発掘調査報告(第13号)』同財団	
	長久保遺跡	—	—	—	—	—	—	—	—	加B1	13	II c	106	—	—	「小笠原山」2号土壇と入り子。	秋田かの子	1997	「駒形遺跡」『発掘調査報告(第13号)』同財団	
海老名市	長久保遺跡	—	—	—	—	—	—	—	—	加B1	13	II c	106	—	—	「小笠原山」2号土壇と入り子。	秋田かの子	1997	「駒形遺跡」『発掘調査報告(第13号)』同財団	
	池崎・金山遺跡	14.6	—	5.6	—	—	—	—	—	加B1	13	II c	106	—	—	「小笠原山」2号土壇と入り子。	秋田かの子	2007	「池崎・金山遺跡」『発掘調査報告(第13号)』同財団	

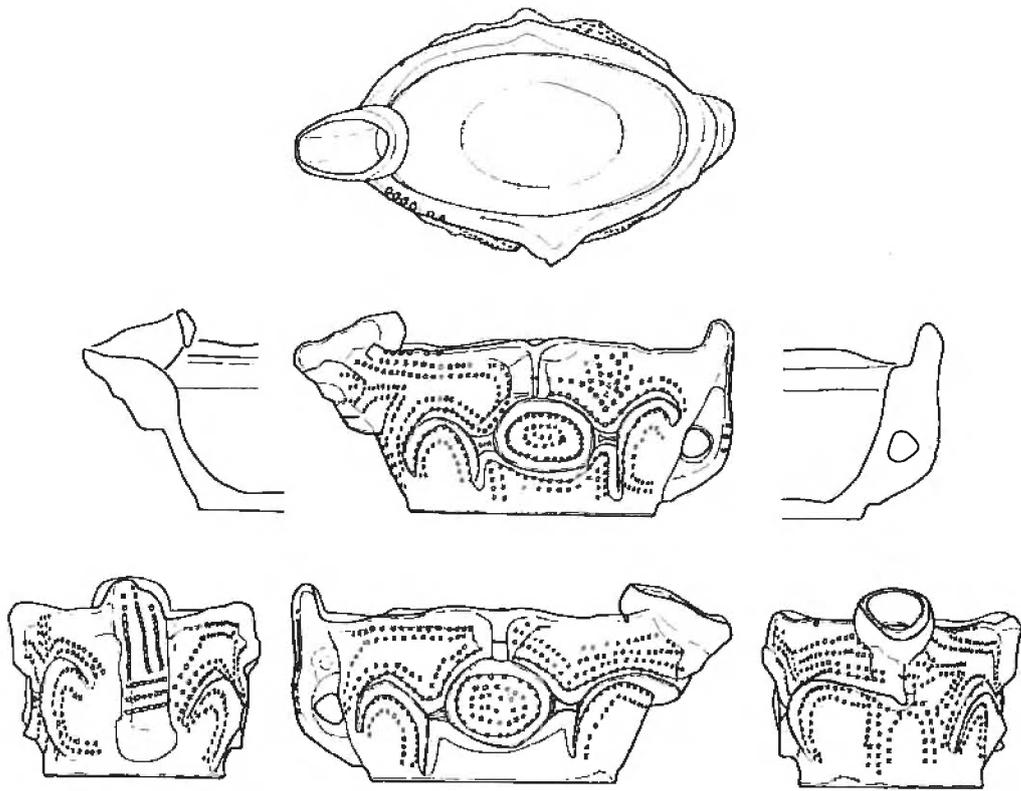
合併後 市町村名	遺跡名	口縁部			底部		器種	残存度	出土状態	時期	中村分類	報告No.	備考	文献	
		長辺	短辺	器高	長辺	短辺									
(中郡)市	龍峯遺跡			(1.0)	9.0	5.0	浅鉢	底部				3 区	底部底面に付着。未。	久田正弘 2013 『西日本への青銅文土器と角形土器・容器の普及』『石川県立歴史文化財センター』同県歴史文化財センター	
	奥の城西墓遺跡													北村亨・浅沼 朝和 2004 『奥の城西墓遺跡』中野村教育委員会	
阿賀野市	六野瀬遺跡	9.0	6.0	2.4			丸底	舟形土製品	完形			3 区	無文。	久田正弘 2013 『西日本への青銅文土器と角形土器・容器の普及』『石川県立歴史文化財センター』同県歴史文化財センター	
新発田市	青田遺跡	(10.0)	(7.0)	4.0			丸底	浅鉢	1/4	S 3 崩	大洞A	1 区	浮線網状文	荒川隆史・石 丸和正他 2004 『西日本への青銅文土器と角形土器・容器の普及』『石川県立歴史文化財センター』同県歴史文化財センター	
前山町	下老子笹川遺跡	(16.2)	(11.0)	(3.0)				浅鉢	底部欠損		笹川IV期 大洞A	45 区 72 区 100 区	26 151 321	久田正弘 2013 『下老子笹川遺跡』(公財)石川県立歴史文化財センター	
石川町	乾遺跡	(26.0)		(6.8)				浅鉢	破片		晩期青銅	3 区	上下3本の溝線間に3系1組の波状溝線と刺突を有す。	伊波繁一・西 田梓作他 2001 『松任市乾遺跡発掘調査報告書』(公財)石川県立歴史文化財センター	
白山市	八田中遺跡													久保田正弘 1987 『八田中遺跡』(公財)石川県立歴史文化財センター	
	笠舞遺跡							ミニチュア	完形		中期末	100 区	刺突を伴う2段の径筋。	主肥秀 1982 『金沢市・笠舞遺跡』『富山県立歴史文化財センター』同県教育委員会	
加賀市	三木A遺跡													堀内光太郎 2009 『加賀市三木A遺跡』(公財)石川県立歴史文化財センター	
床浦市	北方池ノ下遺跡													久田正弘 2013 『西日本への青銅文土器と角形土器・容器の普及』『石川県立歴史文化財センター』同県歴史文化財センター	
七尾市	小島六十洲遺跡													主肥富士男 1986 『小島六十洲遺跡』七尾市教育委員会	
野々市市 (野々市町)	御経塚遺跡		12.0 (25.0)	(10.0) (15.5)			丸底	浅鉢	胸部上半 両端部欠損		住居址 住居址 調査区	1 区 5-14-4 5-15-20 5-56-50 5-73-14		高橋勝義編 1983 『御経塚遺跡』野々市町教育委員会	
福井県	開道遺跡													古川豊 2012 『開道遺跡』福井市教育委員会	
長野市	宮崎遺跡							浅鉢			大洞A			岡本洋一・根 梓多 2000 『長野市宮崎遺跡(第1～5次調査報告書)』『立命館大学文学部学芸員課程研究報告第9号』立命館大学文学部	
上田市	溝谷B遺跡													無文 1984 『竹田遺跡・溝谷遺跡・高野遺跡』『長野県発掘調査報告書 第10集』上田市教育委員会	
(真田町)	堀石遺跡	12.6	9.0	5.4			丸底							福山町史 1998 『堀石遺跡』『富山県立歴史文化財センター』同県教育委員会	
小諸市	石神遺跡	15.6	12.8	7.2						S X 15 W b G 8 G		93 区 94 区	191 区 192 区	1991 『石神遺跡』『小諸市立歴史文化財センター調査報告書19』同県教育委員会	
茅野市	諏訪宮町遺跡	(16.2)	(11.0)	(3.0)				浅鉢	底部欠損		大洞A	1 区	53 -349	浮線網状文	樋口昇一・百 瀬長秀 1982 『諏訪宮町遺跡』『長野県立歴史文化財センター調査報告書14』同センター
		(10.0)	(7.0)	2.6			丸底	浅鉢	口縁部欠損		大洞A	1 区	53 -418	無文	
飯田市	山の神遺跡						丸底	舟形土製品	2/3					大竹憲治 1998 『山神遺跡』『長野県立歴史文化財センター調査報告書14』同センター	
	明野村	北村遺跡	4.8	4.2	4.0					鉢(線刻)	S B 555 (住 居)	95 区	1 区	161-9	無文 1993 『北村遺跡』『長野県立歴史文化財センター調査報告書14』同センター
大町市	一津遺跡		(7.0)	(4.9)			丸底				A地区	大洞A	78 区	109	浮線網状文 1990 『一津』『大町市立歴史文化財センター調査報告書14』同県教育委員会
静岡県															
伊豆市	妙善寺大塚遺跡	18.7	13.5	11.6								II b	183 区	12	加藤宗園・吉 野元直 1982 『妙善寺大塚遺跡』同県教育委員会
浜川市	角江遺跡														『角江遺跡』浜川市教育委員会
愛知県															
名古屋	馬見塚遺跡				9.6	6.8		浅鉢	底部		晩期終末	42 区	24	無文・不発見。 1970 『馬見塚』『愛知県立歴史文化財センター』同県教育委員会	
朝日遺跡	朝日遺跡	(34.5)											17	無文。 2005 『朝日遺跡』第1部『遺化半野の弥生文化』『名古屋の弥生文化』大府野史報文化	
	神明社貝塚										元住吉山 2			無文。 2005 『神明社貝塚』『名古屋の弥生文化』大府野史報文化	
三重県															
鈴鹿市	八重垣神社遺跡														山田伸 2010 『八重垣神社遺跡(第6次)』鈴鹿市考古学研究所
奈良県															
橈原市	橈原遺跡														
京都府															
京都府	一乗寺向井遺跡												12 区		山田伸 2007 『一乗寺向井遺跡』『日本の史跡11』京大
京都府															
京都府	織戸御蔵屋遺跡			(2.0)		4.8									久田正弘 2013 『西日本への青銅文土器と角形土器・容器の普及』『石川県立歴史文化財センター』同県歴史文化財センター
				(9.6)		破片									
		24.2	8.0	8.2	8.0	4.0									
			8.2	6.6	5.0	5.0									



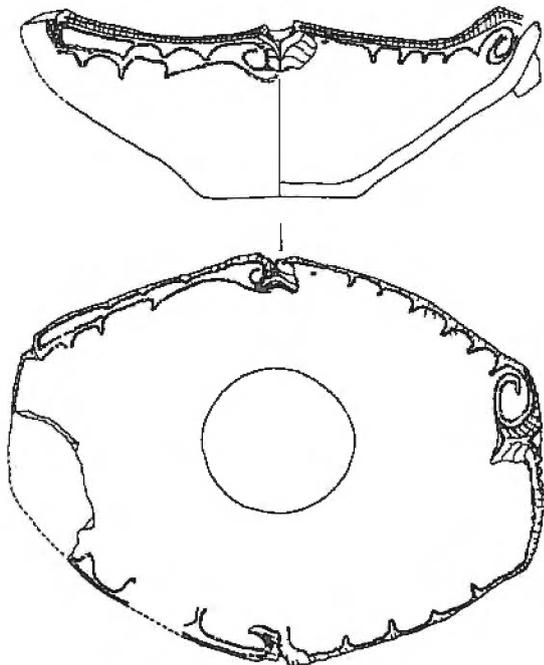
第 1 図 舟形土器分布図 (中村 2005 に加筆)



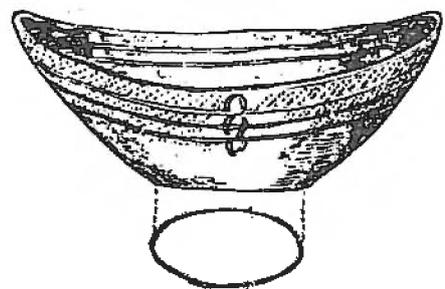
第2図舟形土器分類図 (縮尺不動 中村 2005 による。N○は中村を踏襲)



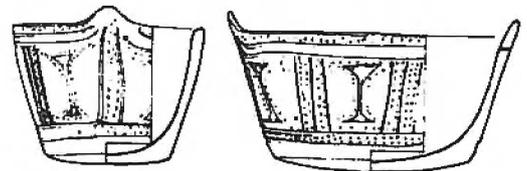
1 ヲサル山遺跡



2 根崎遺跡

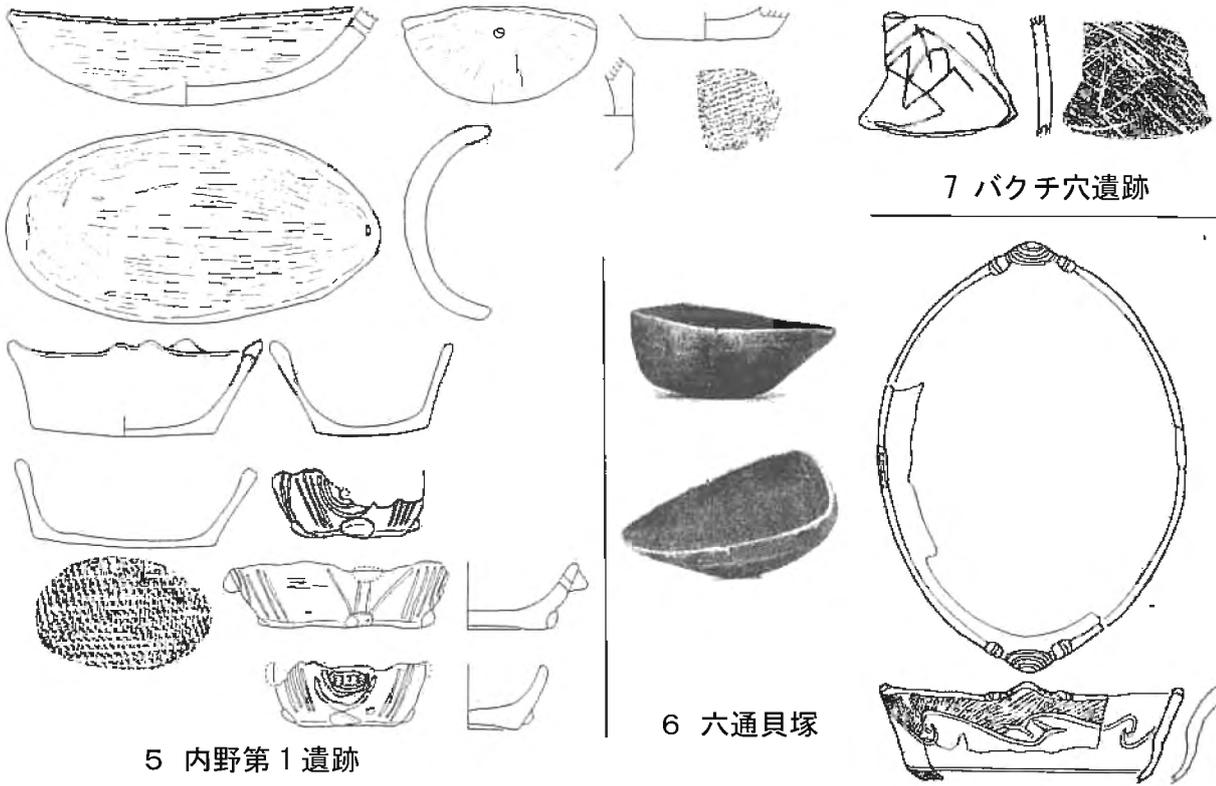


3 加曾利貝塚（大山）



4 西広貝塚

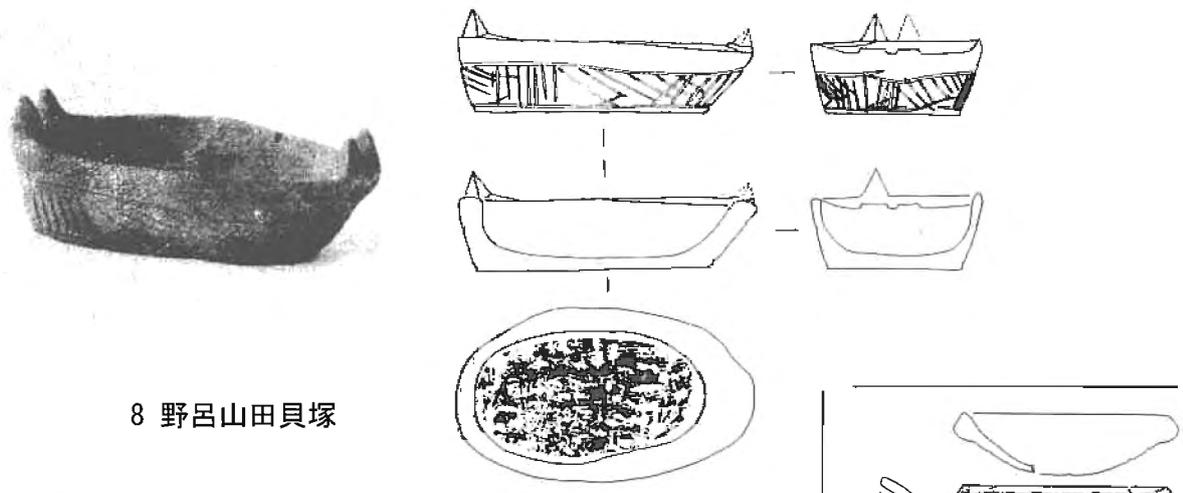
第 3 図 関東地方 (1- 千葉県)



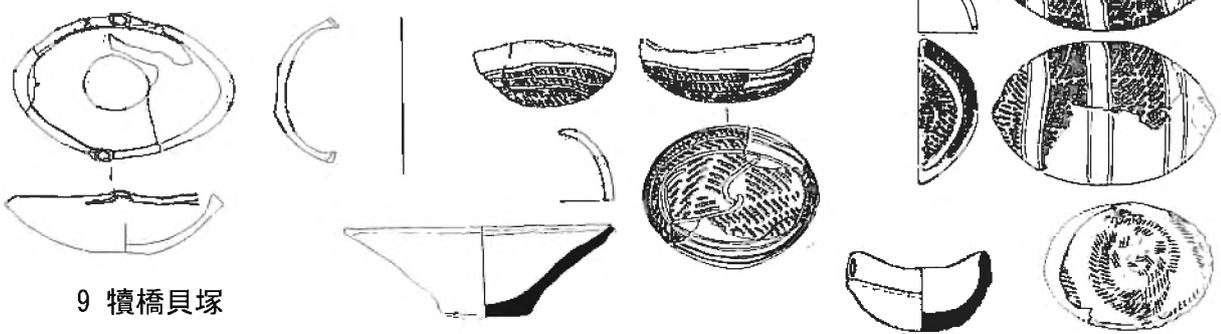
5 内野第1遺跡

6 六通貝塚

7 バクチ穴遺跡



8 野呂山田貝塚



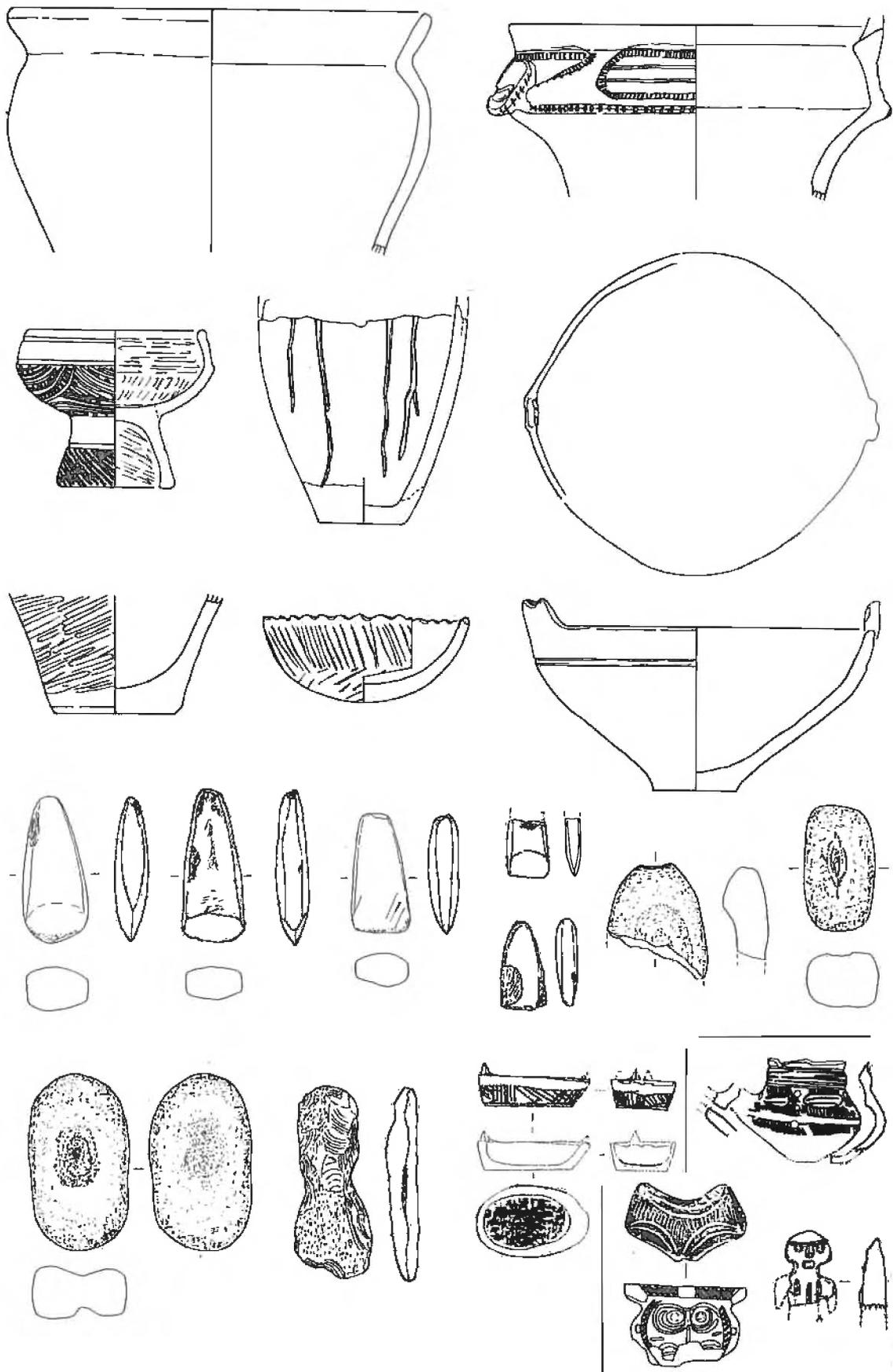
9 櫛橋貝塚



11 三ツ矢遺跡

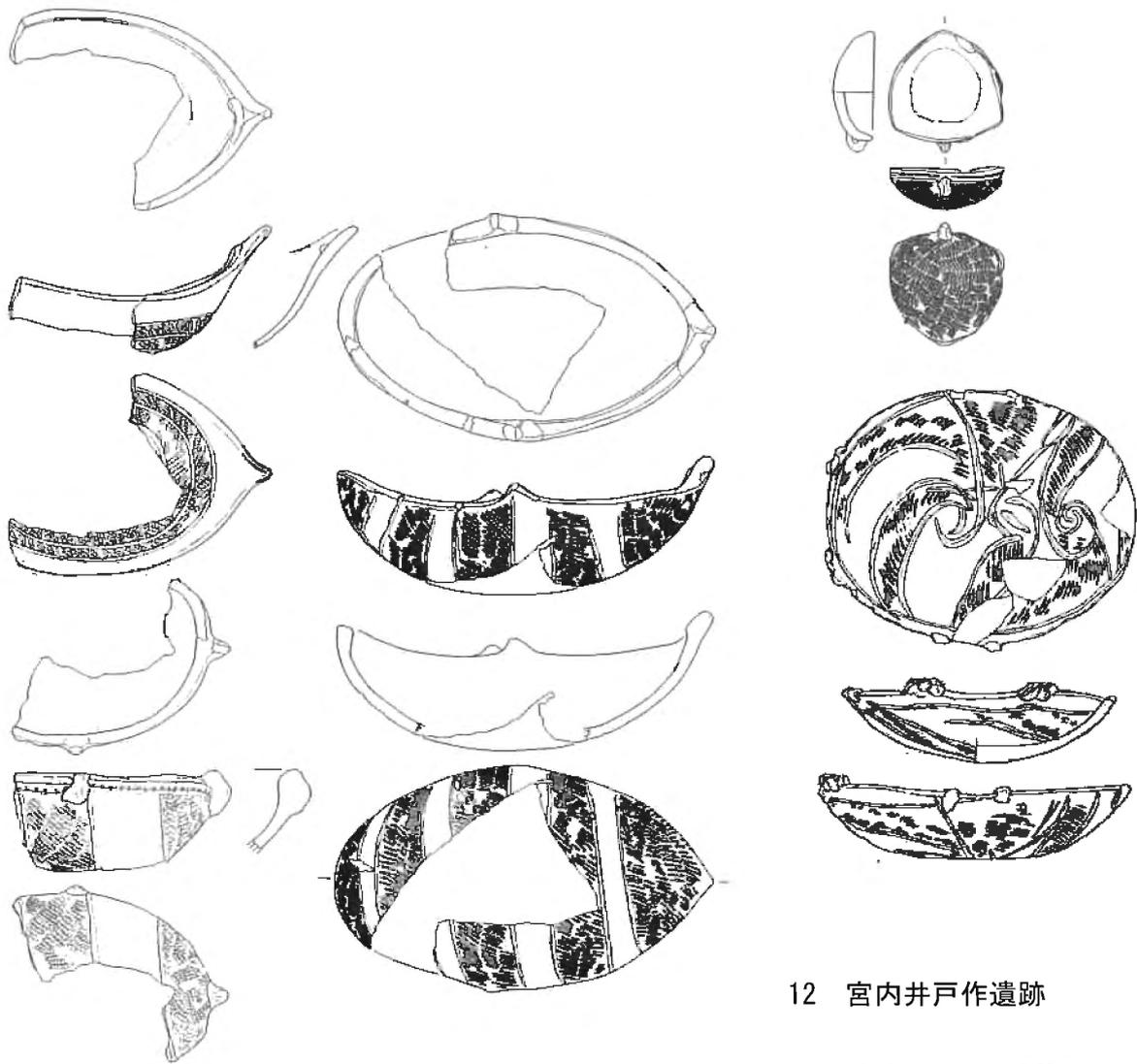
10 加曾利貝塚 (2)

第4図 関東地方 (2- 千葉県 2)

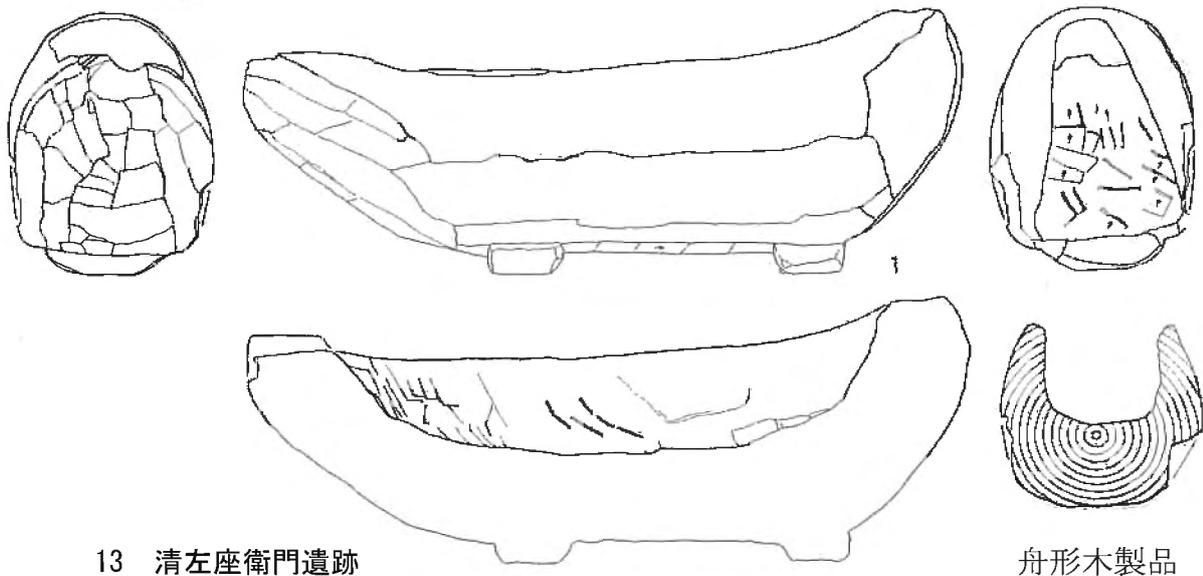


参考（八反目台貝塚）

第 5 図 関東地方（3-千葉県 3・野呂山田貝塚分布調査資料）



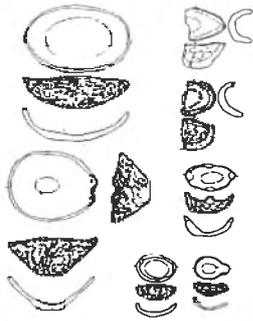
12 宮内井戸作遺跡



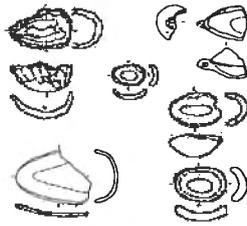
13 清左衛門遺跡

舟形木製品

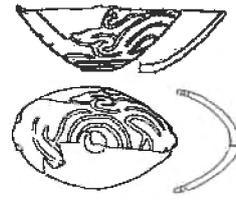
第6図 関東地方(4)



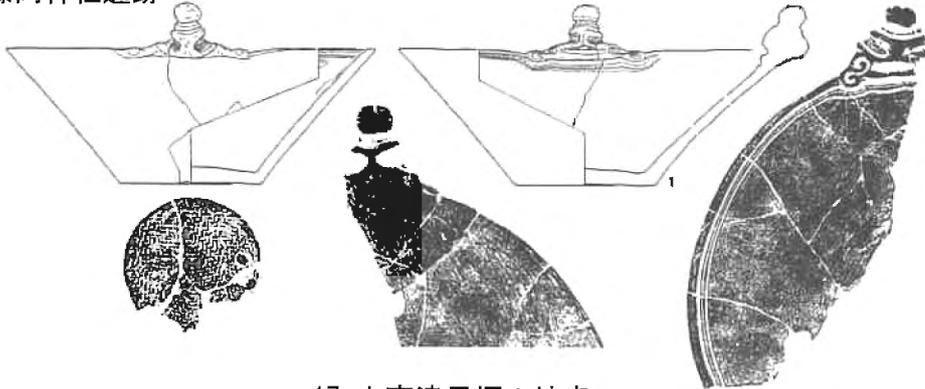
14 藤岡神社遺跡



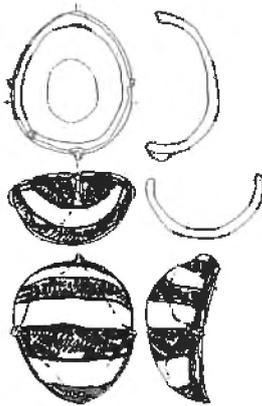
15 寺野東遺跡



16 菅塩遺跡群



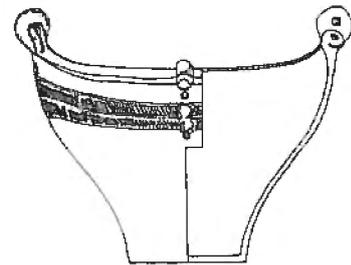
17 上高津貝塚A地点



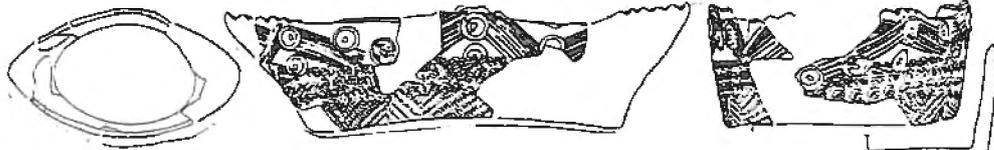
18 上高津貝塚C地点



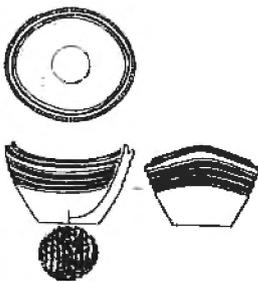
19 三反目蜆貝塚



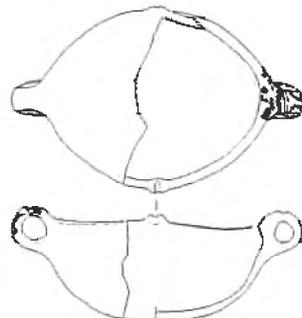
20 丸山遺跡



21 深作東部遺跡群



22 南遺跡

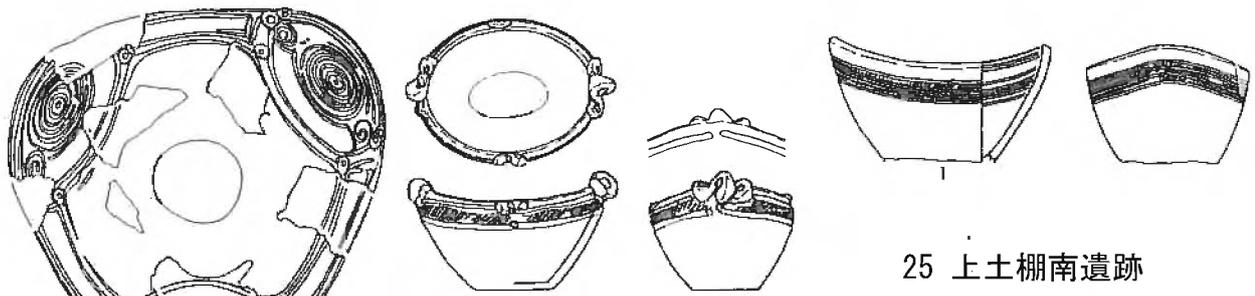


23 後谷遺跡

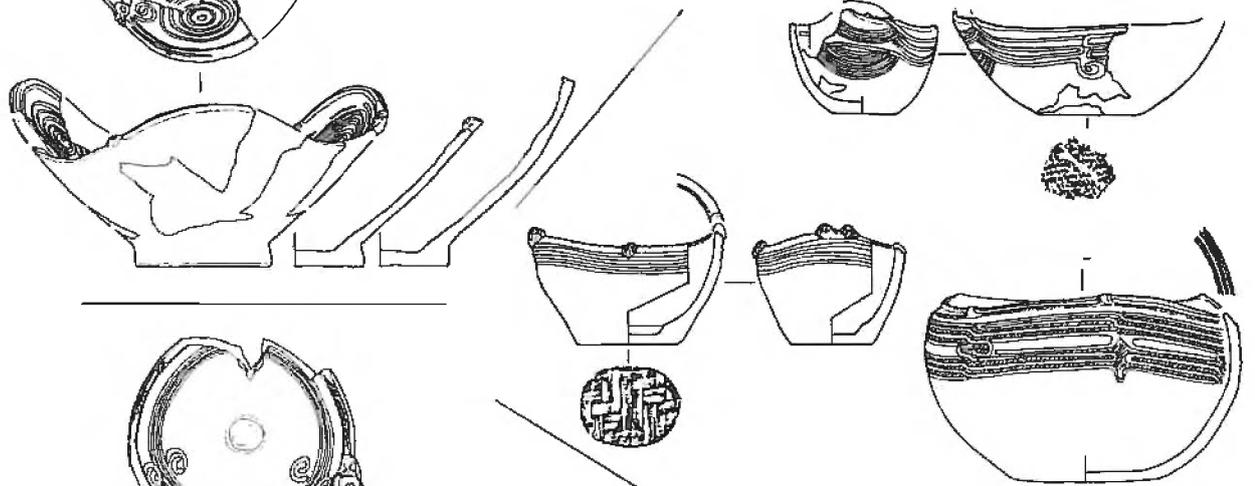


24 裏慈恩寺遺跡

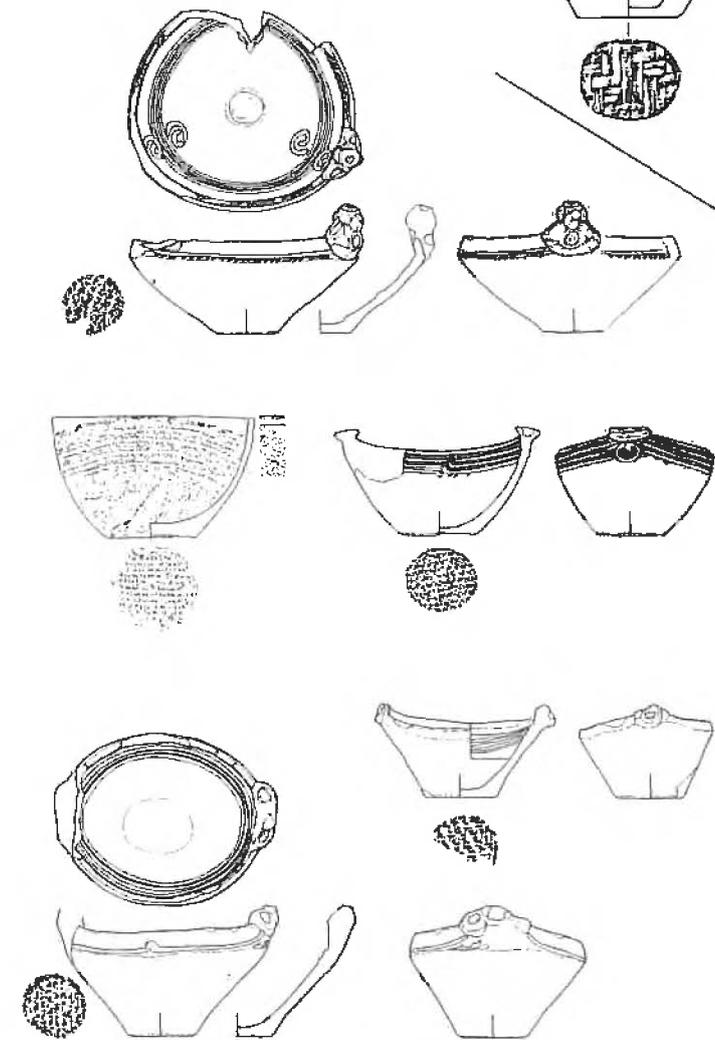
第 7 図 関東地方 (5)



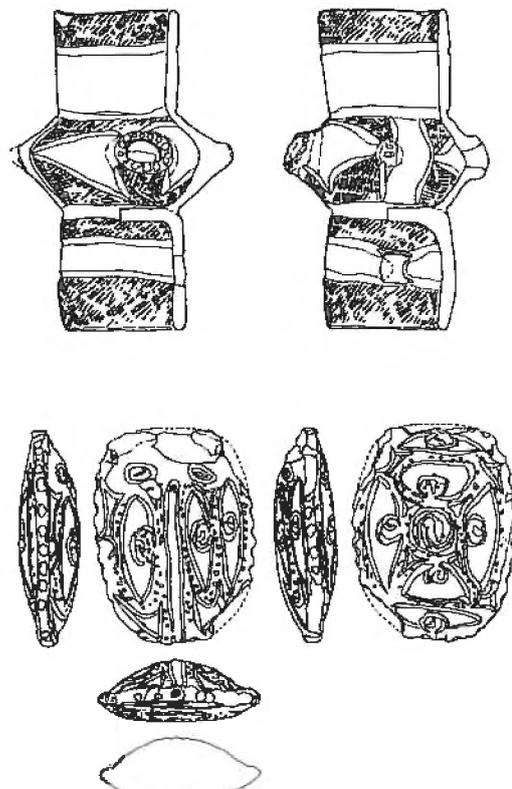
25 上土棚南遺跡



26 華蔵台遺跡



27 太岳院遺跡

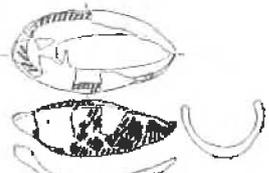


28 五反畑遺跡

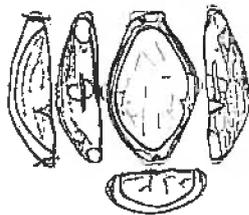
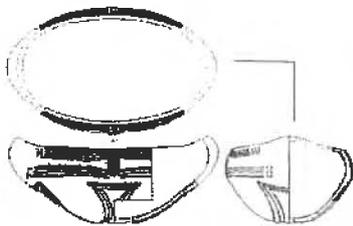
第8図 関東地方(6)



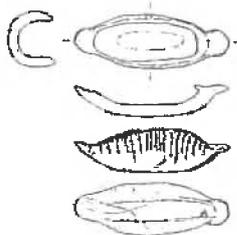
29 是川遺跡



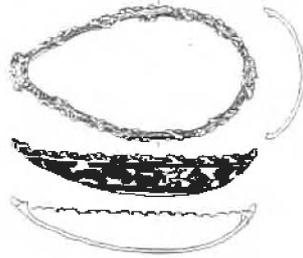
34 大芦 I 遺跡



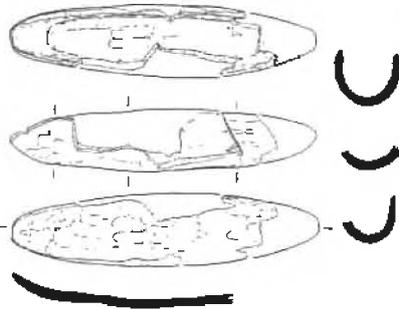
38 六ノ瀬遺跡



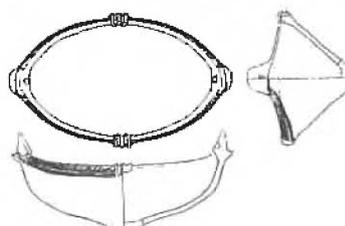
40 戸井貝塚



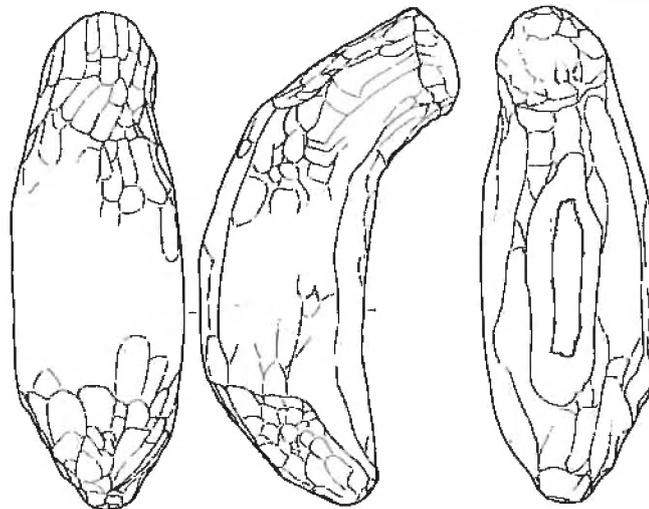
30 石亀遺跡



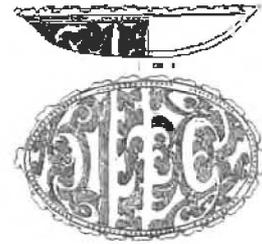
35 御社宮司遺跡



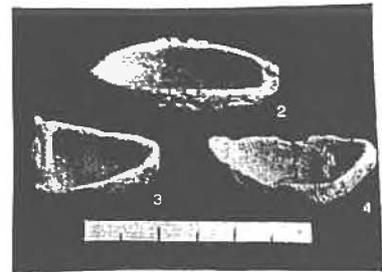
36 御経塚遺跡



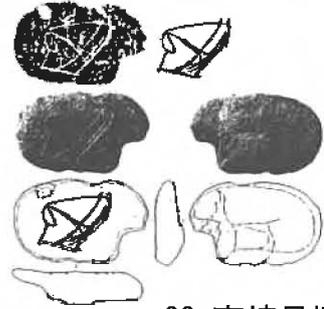
39 岩渡小谷遺跡



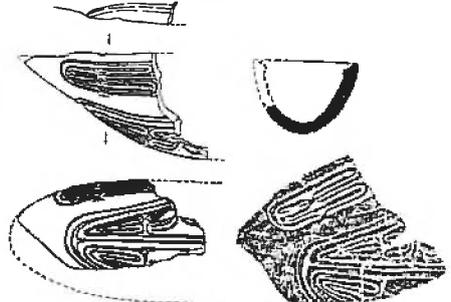
31 石郷遺跡



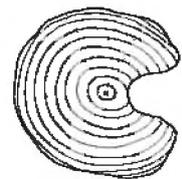
32 宝ヶ峰遺跡



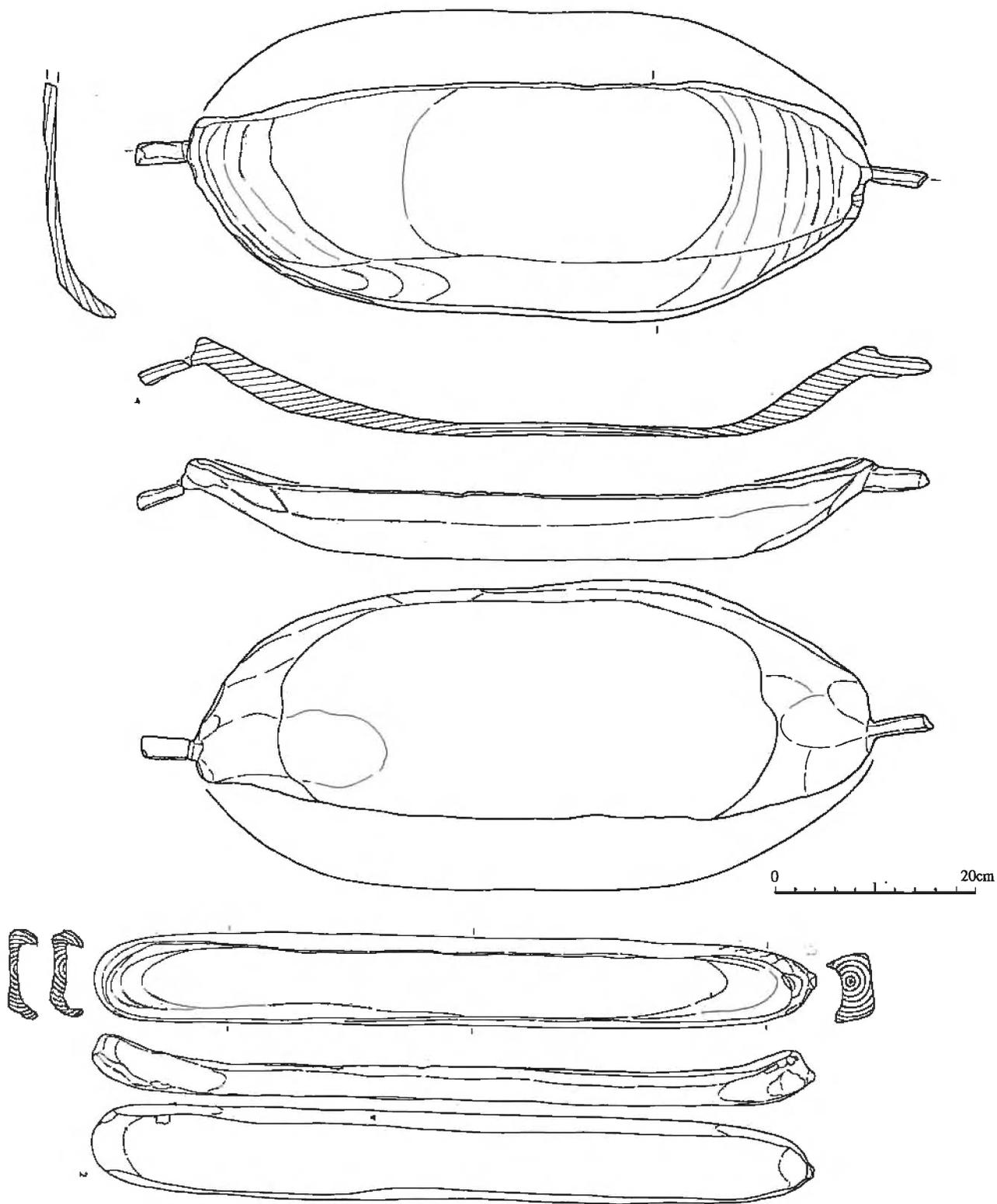
33 南境貝塚



37 一津遺跡



第 9 図 東北 (1)・北海道地方 (1)・北陸



41・42 岩谷小谷遺跡 (2)

舟形木製品

第10図 東北地方 (1)